【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 四日市幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	丈夫な体の育成	4
成果と課題	①園内や園外で自然に親しむ機会をつくる ・菜の花や桜を見に行ったり、どんぐり拾い、みかん狩りに出かけたりして季節や自然を感じられる経験をした。 ・園内の畑で野菜を育てたり、みかんや柿などの果物を収穫したりして、季節感を味わうことができた。 ②戸外遊び、運動遊びの充実 ・戸外遊びや運動遊びをしたくなる、環境の設定や誘いかけをすることで体を動かすことが好きになった。 ・外で遊べない時は、ホールやテラス等で運動遊びができる環境を設定し、いろいろな体の動かし方ができるような工夫をした。 ・竹ぽっくり、竹馬、縄とびなど難しい活動に少しずつ励ましながら取り組んでいくことで、継続的に根気よく取り組む力がついた。 ③食べ物への興味、関心を育てる ・自分たちで野菜や果物を栽培、収穫し、クッキングをした。旬の食べ物を知り、食べることへの関心を持つことができた。 ・給食や栽培活動、食育活動に取り組むことで、少しずつ食べられるものが増えた。 ・園で収穫した野菜を持ち帰り、家庭で料理してもらい弁当に入れてもらう姿あった。また園で食べた料理を家庭でも作り家族で味わうなど、食育活動が広がり、食の楽しさを味わうことができた。 △園内では、苦手な物でも努力して食べる姿があるので、今後は家庭と連携して進める。	

重点２	人とかかわる力の育成	3
成果と課題	①コミュニケーション能力の育成 ・あいさつをすること、返事をすること、人の話を聞くことの大切さを知らせ、継続的に取り組んできた。 ・幼児が自分の気持ちを大事にし、どんな気持ちも出せるように受け止めるようにしたことで、気持ちが出せるようになり言葉で伝えられるようになった。 △自分の思いを表現するが、時には大人や友だちの意見に合わせる幼児の姿がある。自分の思いを大事にできる継続的に取り組んでいく。 ②道徳性や規範意識の芽生えを培う活動の充実 ・やってよいこと悪いことがわかる、ルールを理解し守ろうとする、相手の気持ちを思いやる、みんなで使うものを大切に扱う、友だちと譲り合ったり妥協したりすることを日々の生活や遊びの中から、繰り返し丁寧に伝えていくようにした。個別に伝えたり、クラスでこんな時どうするといいか考える時間を作ったりして身につけていった。 △今後も身につくように継続的な取り組みをしていく。	

重点３	子育て支援の充実　地域・家庭との協働	4
成果と課題	①基本的生活習慣の定着 ・衣服の着脱、食事（食事中の姿勢や箸の使い方）、排泄の自立、手洗いうがいなど、自分のことが自分でできるようにスモールステップで支援していった。自分でできる喜びや褒めらる喜びを積み重ねていくことで、自分ですることの楽しさを味わうことができた。家庭とも連携しながら、一緒に取り組むことができた。 △園では、自分のことは自分でするので、今後も家庭と連携しながら取り組んでいきたい。 ②保護者との連携の充実を図る ・登降園時に、園や家庭での様子を共有したり、子育ての悩みを聞いたりした。保護者の思いに寄り添い、保護者の方も幼稚園が楽しいと思えるように努めることができた。 ・今年度から混合クラスになり、不安のある保護者もいたが、遊びや活動の様子を丁寧に伝えていくことで、安心してもらうことができた。	

重点４	教師の役割　教育活動の充実	4
成果と課題	①心が動く遊びの充実 ・幼児の心が動く遊びの環境を設定したり、幼児がやってみたいという思いを丁寧に受け止め実現したりすることで、幼児の興味・関心にあった遊びの充実が図れた。 ・教師が幼児の心の動きを見逃さず、認めたり褒めたりすることで自信がつき、「やってみよう」「次はこれをしたい」という気持ちを育てることができた。 ②一人一人に合わせた指導のあり方を考える ・今年度から、混合クラスになったが、取り出して教育することで４、５歳の発達に合わせた教育内容を保障していった。 ・一人一人に合わせた援助をしていくため、日々の幼児の姿を職員間で共有していくことを大事にしてきた。全職員が共通理解のもと、ねらいを持ってかかわっていくことができた。	

２　改善方針

・保護者アンケートの「嫌いな食べ物を努力して食べる姿が見られますか」（A評価58%）、「自分でできることが自分でしようとしますか」「（A評価45%）は、園ではがんばる姿があるが、保護者の評価は低くなっている。家庭でもやってみようとする気持ちを育てていく。また、生活リズム、食育、あいさつに取り組めるように、講習会や参観などを行い、保護者と一緒に取り組める方法を考えていく。

・重点２「人とかかわる力の育成」では、話す力がつくように、話したくなるような心動く体験や、聞いてくれる大人や友だちの存在を大事にして、話すことが楽しいと思える環境を作っていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 橋北こども　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	コミュニケーション力のある幼児の育成	4
成果と課題	・大人がまず声をかけ、自分から挨拶ができる幼児の育成に努めてきた。園外保育で出会った地域の人や、来園者に挨拶する姿が見られ、そのことを認めてきた。まだ恥ずかしがってできない幼児もいるが、保育教諭や友だちに挨拶をする姿が増えてきた。 ・自分の気持ちを言葉や行動で表現できるよう、好きな遊びを一緒にしながら信頼関係をつけていった。友だちに意見や思いを伝えたり、聴いたりする機会を作ったりして、友だちの思いに気づいていけるようにした。どう話すと相手に伝わりやすいか、聴いてくれるかを考えようとするようになってきた。自分を十分に出せることになったことで、友だちの思いにも気づけるようになってきた。 ・絵本を見たり、読み聞かせの時間を大切にしたりして環境を整えてきた。話を聴く時の姿勢も一緒に考えてきた。自分の思いや感じたことを表現する時間を大切にすることで、言葉が豊かになってきた。	

重点２	幼児の姿・発達にあった教育・保育の充実	3
成果と課題	・毎月学年での打ち合わせの時間を持ち、教育・保育計画を立ててきた。しかし、職員間で保育・教育のすり合わせや共通認識には工夫が必要である。今後も子どもたちが生き生きと遊び込めるように保育環境や内容の充実を図っていきたい。 ・最初に、体操や踊っている姿を見ることを楽しんでから、イメージを共有して遊ぶなど、それぞれの子に合わせて遊んでいくことができた。他の保育教諭がしていることを参考にすることで、遊びを充実させ、自分の保育の幅を広げることができた。 ・さくらんぼリズムを継続的に取り組んだり、室内外の遊具を活用しながらサーキット遊びを取り組んだ。またグラウンドや園庭、多目的ホールを活用し、体を動かす遊びを展開していくことができた。しかし、今年度、園外に行く機会が少なかった。計画的に園外に出かける機会を増やし、歩く経験を増やしていきたい。	

重点３	小中学校、地域との交流の充実	3
成果と課題	・小学１年生との交流、小学校の先生による理科の授業体験では、小学校への期待の気持ちが大きくなった。 ・中学校の保育体験や体育祭、文化祭への参加など回を重ねることで、親しみや憧れの気持ちを持つことができた。 ・地域の老人施設での交流や祖父母参観では、人の温かさを感じ、自分が大事な存在であると感じることができた。 ・中学校が近いため、出かける機会を増やして行くことで交流の機会を持てたのではないかと感じる。	

重点４	子育て支援の充実	3
成果と課題	・ホワイトボードで毎日の生活を文字だけでなく写真も添えて知らせたり、一人一人に直接話すことを大切にしてきた。また、行事や保育の写真をクラスだよりに載せ、より園生活への理解と関心を持ってもらえるようにした。 ・子育て支援センターでは、読み聞かせやわらべ歌、リズム遊びなどのイベントなど工夫したり、多目的ホールで在園児と一緒に遊ぶなど、交流を大切にしてきた。 ・保護者だけでなく子育て支援センターなどに来た方にも園での様子や子どもたちの育ちがわかるように「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」を掲示してきた。 ・園児の話はもちろん、その兄弟（姉妹）の話など、保護者と子どもたちの成長を共に見ていく関係を築いてきた。	

２　改善方針

・それぞれの打ち合わせを丁寧にもち、職員間の共通認識で確認し合えるようにしてきた。また、保育環境や内容においても保育を見合ったり、研修の還流をしながら共有を図っていきたい。

・園庭が狭いこともあり、３歳未満児と３歳以上児とで使う時間を曜日ごとで分けたり、隣接するグラウンドを使用するなど工夫してきた。そうすることによって、以前より十分に遊ぶ時間を確保することができた。今後も連携を取りながら進めていきたい。

・近隣の公園や地域への散歩コースの安全確認、ルートの確定を行い、保護者へも啓発をした。しかし、行事等の兼ね合いで、３歳以上児はなかなか出られないこともあった。園外保育を計画的に検討しながら、様々な自然体験をできるだけ多く持ちたい。また、歩くことで体力の向上を意識し、１年間の教育・保育計画を組み立てていきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　富田幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	健康な体づくりの推進	3
成果と課題	・混合2年目で5歳児は昨年度の経験を活かし、4歳児に優しくかかわる姿が見られた。互いに刺激を受けあうことで活動意欲が増し、様々なことに挑戦する姿が見られた。幼児の声に耳を傾け、遊びに取り込み、楽しみながらサーキット的な遊びができるように工夫した。今後もより広い園庭を活かした活動の工夫に取り組みたい。 ・アンケート結果より歩く力と体力の向上の要望があった。保護者連携を密にし、園外保育や戸外での遊びを増やし、基礎体力の強化を図っていく。 ・職員間で打ち合わせを密に行い、研修時間を確保して、ふれあい遊びやリズム運動、手遊びなどを紹介し学びあったり、教材研究を効率的に行い保育に反映したことで子ども達にも刺激となり楽しみながら体づくりに取り組めた。DVDを保護者参加の際に活用し楽しく踊ったことで共通の話題ができ親子の触れ合い促進につながった。 ・根間を通して栽培活動に保護者にもかかわってもらった。親子で栽培への興味や意欲を持って取り組む姿が見られ、それが幼児一人一人の食の幅の広がりにもつながった。今後もおたより、ホームページ、ドキュメンテーションを通してバランスの良い食事について知らせ、ともに取り組み、体づくりを推進したい。	

重点２	地域・保護者との連携を密にした教育の推進	4
成果と課題	・保護者との連携強化に向けてドキュメンテーションを取り入れた。それをもとに意見交流したことで保護者の新鮮で温かな子どもに対する思いに触れることができ、保育にも反映していくことができた。時間を置かずにリアルタイムに情報交換でき意見を保育に反映できたので今後もうまく保護者の意見を保育に取り入れていきたい。 ・園外保育にも計画的に出かけ、記録を残し「お散歩マップ」の基礎づくりに取り組めた。今後はより計画的に園外保育に出かけ、地域を知るきっかけとしたり、地域の方と親しくつながり、地域に根差す幼稚園を目指したい。 ・ゲストティーチャーに今後も園の教育に参画して頂き、園も地域行事等に積極的に参画し「幼稚園大好き！わが町大好き!とみだっこ」の育成をより確かに進めたい。 ・今年度は日程調整を図り学びの一体化の活動にも出来る限り参加できるように工夫してきた。連携も深まり、子ども達の先の成長を見通した教育計画を立てる手がかりをつかむことができた。その学びを今後の教育課程に取り入れ活かしたい。	

重点３	ふれあい　ささえあい、ともに輝く　子どもの育成	3
成果と課題	・職員間で情報共有して、粘り強く関わってきたことが徐々に実を結び、友だちを気にかける姿や頑張っているところを自分なりの表現で伝えあう姿が見られるようになった。幼児の表現力の向上を多くの機会を通して保護者に伝えていきたい。 ・幼児一人一人を多面的、肯定的にとらえた姿を丁寧に記録に残し、エピソード記録の作成をしたりして保育の向上につなげていく。 ・一人一人の成長をきめ細やかにみていくために、保護者との連携や家庭訪問を積極的に行った。保育公開や大学連携にも積極的に取り組んだことで幼児の絵画製作面での指導や環境構成の工夫について多くの方々と意見交流し学ぶことができ、保育改善の意欲につながった。 ・今後も幼児一人一人がありのままの自分を出せるような環境づくり、友だちや自分の良さを見つけ心地よく認め合えるような関係づくりを目指し研修を深めたい。	

２　改善方針

＜重点1＞
・今年度幼児の心に寄り添い、幼児の言葉を保育に反映させ遊びを展開する工夫を行ってきた。今年度の研修の成果を生かし、学びを実践に取り入れて環境構成の改善に取り組んでいく。広い園庭を有効に活用し、思い切り体を動かして遊びを楽しみ、遊びこめる環境づくりを目指し、職員、保護者、地域の方々、専門機関との連携を視野に入れて活動充実に向け取り組む。
・栽培活動や食育活動へのより活発な保護者参画を目指し、保護者と相談しながら計画を立て、実践する。その中で親子の触れ合いが自然な形で持てるように工夫する。
・保育への保護者のゲストティーチャーとしての参加の方法を模索する。
＜重点２＞
・今年度より取り入れた、ドキュメンテーションやエピソード記録を使っての研修の充実を図り、保護者連携に生かしていく。ドキュメンテーションについては保護者の意見反映に向けて、提供の仕方や機会を工夫していく。
・地域との触れ合いの場を大切にし、今後も地域の豊かな教育力を園運営に反映できるよう工夫していく。定着してきたあいさつの習慣化を目指し、園児、保護者、職員が継続的にあいさつを交わしあっていく。地域のあいさつ運動にも参画し、ふれあいの場を大切にする。
＜重点3＞
・積極的に保育を公開する場を持ち、多くの人から多面的に保育に対する意見をもらい、保育の振り返りと改善を図っていく。一人一人の幼児を多面的に肯定的にとらえて保育を展開するために公開保育の事後研へ小・中の先生の参加を誘いかける。
・計画的に園内研修の時間を取り、効率的に研修を進め、きめ細やかに一人一人の成長をみとっていく。また、成長を促していくための研修に積極的に参加し、還流報告研修も充実させていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　海蔵幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	遊びを通しての「学び」の充実	4
成果と課題	○日々の遊びの中で、教師は幼児たちの興味関心やつぶやき、発見を丁寧に受け止めてきた。教師自身も幼児とともに考えたり、幼児が考えられるように言葉をかけることを意識してきた。そのかかわりを通して、4歳児は経験を豊かにし、新しいことにも安心して取り組む姿や友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう姿が見られた。5歳児も、友だちと試行錯誤を繰り返し、工夫したり考えたりしながら夢中になって生き生きと遊んだ。『自立心』『思考力の芽生え』『道徳性・規範意識の芽生え』『数量や図形などへの関心・感覚』『協同性』が育まれた。 【学校教育ビジョンアンケート】 「園の生活や遊びが楽しいと言っていますか」 「遊びの種類や生活体験が増えましたか」 「遊びを試したり工夫したりして遊びますか」 の３項目において『そう思う・おおむねそう思う』で100%と高い評価であった。 ○職員の園内研修を通して、幼児の実態、幼児一人一人の育ってきた力の共通理解を図ってきた。そのことで、幼児自ら意欲的に遊びだすことができる教材・環境の工夫や職員間の連携につなげることができた。 【園独自の保護者アンケート】 「幼稚園での活動で、子どもたちの意欲が育ってきたと思いますか」 『そう思う・おおむねそう思う』100% ◎今後は、引き続き、幼児の発達に合ったかかわりや教材研究、環境の工夫に努め、幼児の「学び・育ち」に向かうプロセスを可視化していく。また、幼稚園の取り組みに対する理解を高めるために、保護者や地域へ発信する方法や内容の表し方を探る。	

重点２	コミュニケーション能力（豊かにかかわり合おうとする力）の基礎を育成	3
成果と課題	○4歳児では、友だちと思いがぶつかる場面で、教師は丁寧に幼児の気持ちを引き出し、相手にどう伝えるといいかを幼児とともに考えながらかかわってきた。そのことで、自分とは違う友だちの気持ちを知る経験となり、自分の気持ちを表現しようとする姿や折り合いをつけようとする姿が増えた。 ○5歳児でも、日常の遊びの中で「自分の思いを伝える・友だちの思いをきく」関係づくりを意識して取り組んだ。教師が一人一人の幼児の気持ちに寄り添い丁寧に関わることで、友だちと思いを伝えあう姿、自分たちで解決しようとする姿が育まれた。 ○自由記述の保護者アンケートで「自分だけでなく友だちのことを気にかけたり、優しく声をかけたりする姿が見られるようになった」という意見が多かった。友だちとのつながりにおいて意識してかかわってきたことが成果につながった。 ○日常的に幼児同士がクラスの枠を超えてかかわり合い、全職員がどの幼児にもかかわれるよう意識して取り組んできた。簡単な挨拶ややりとりを交わすことで、かかわりが広がった。 ○読み聞かせ・語りきかせのボランティアの協力を得ることができ、日常とは違う雰囲気での「きく」の場が増えた。今後も継続して取り組み幼児の力につなげていく。 【学校教育ビジョンアンケート】 「自分から日常のあいさつができるようになりましたか」 『そう思う・おおむねそう思う』85%『あまり思わない』15% ◎初めて出会う人との挨拶や友だちとのやりとりの中での挨拶など、細かな場面での挨拶は恥ずかしがる姿も見られた。今後、丁寧に言葉で伝えることを教師が率先して心がけることで、力につなげていく。 ◎今後も、様々な人とかかわることのできる場を作り、挨拶することで気持ちよく過ごせたり、親しみを感じたりできるようにする。	

重点３	健康な心と体を育む活動の推進	4
成果と課題	〇4歳児は5歳児に憧れ広い園庭を活かして鬼ごっこ、リレー、サッカーに取り組む姿が見られた。戸外で遊ぶ機会をたくさん作ったことで、様々な身体の使い方を身につけ、体力向上につながった。5歳児は年間を通して計画的に園外保育の機会を設け、歩く力、体力づくりにつなげることができた。体づくりとともに季節を感じられる自然体験も得られ豊かな心や探求心が育まれた。 【学校教育ビジョンアンケート】 「戸外で遊ぶことが好きになりましたか」 「体力がついたと思いますか」 の項目において、『そう思う・おおむねそう思う』で100%と高い評価であった。 〇砂場で遊び込んだり、竹馬や竹ぽっくり、縄跳び、しっぽ取りなどに挑戦したりする環境づくりに積極的に取り組んだ。友だちに刺激を受けて固定遊具に繰り返し挑戦する幼児の姿が多く見られ、体を動かすことの楽しさを十分に味わう機会となった。また、諦めずに何度も挑戦しようとする姿は多く見られる。 〇寒い時期でも薄着で過ごす姿は多い。また、冬場の朝の駆け足で体を温めることから戸外遊びの機会へつながった。そのことは、一人一人の経験を増やすとともに丈夫な体づくりとなった。 〇大学連携を通した研修の機会や、小学校の先生による跳び箱に向けた指導の機会を持つことで、体づくりにつながる遊びを見直すことができた。幼児が、自ら体を動かしたくなる環境づくりに努めることができた。 〇野菜の栽培や収穫、クッキングなど一連の食育活動に努めた。収穫祭や給食を通し楽しく食べることを大切にすることが、苦手な物に挑戦する姿につながった。食育活動、栽培活動における体験活動のよさは、自由記述の保護者アンケートでも多くの意見が上がっている。 ◎食育に関しての教材を利用した指導の機会が少なかった。教材を活用し、食への興味関心を広げることを意識して取り組む。	

重点４	地域との連携と子育て支援の充実	4
成果と課題	〇公開保育において、幼稚園の取り組みを知らせ、理解を広げることにつながった。公開保育後の参加者の感想に、「小学校以降の学びにつながる遊び」「幼児の主体性を大切にした環境」などについての意見が多く記述されていた。 〇地域のお年寄りとの交流で、優しいかかわり合いの機会をもつことができた。幼稚園以外の方々にも温かく見守られていることを感じる機会となった。 〇桜祭り、菖蒲園に出かけ、地域の自然を知ったり、地域の窯業研究室にて、ヨモギ摘み、虫取り、つくしとりの体験、万古焼の窯の見学もした。親子での万古焼の制作体験も行い地域の地場産業について親しむ機会を持つことができた。 ◎地域に密着した園として今後も継続していく。 〇幼児の誕生月に保護者を招待し、普段の幼児の様子を参観しながら、「幼児期に大切なこと」「成長した喜び」を共有していただく場を作った。微笑ましいふれあいの姿が見られたり、「成長を感じた」という声を聞くことができた。 〇遊び会で毎月誕生会を設定し、在園児が歌を歌ったりプレゼントを渡したりしてふれあえる機会とした。そのことで、遊び会参加者が親しみや安心感を感じられるかかわりを持つことができた。	

２　改善方針

重点１	・保護者に伝えるための表記の工夫、伝えたい視点など、よりわかりやすくなるように工夫をする。また、より多くの人の目に触れる「掲示する場」を検討する。 ・「遊び」の中での幼児の「学び・育ち」に向かうプロセスを可視化し、掲示する。保護者が子どもの成長を身近に感じられるような工夫をする。そのために、引き続き、幼児の発達に合ったかかわりや教材研究、環境の工夫に努めるとともに教師自身の資質を高める。
重点２	・「きく、はなす」「あいさつ」の力がつけられるよう、標語を作り、取り組む。
重点３	・登園時に幼児の様子や健康状態を観察しながら、幼児が一日意欲的に活動できるよう教師は率先して元気な声をかける。それとともに自ら体を動かしたくなる環境設定に努める。 ・教材を活用した食育活動を進め、食への興味関心を広げることを意識して取り組む。
重点４	・保護者や地域との連携を深め、地域・保護者の人材を活かして教育活動に取り入れていけるように努める。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 泊山幼稚園　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	豊かな体験と夢中になれる遊びの充実	4
成果と課題	・１学期より魅力ある環境構成を考慮し、平均台、トランポリン、ジャンプ台などの教具を活用し、しなやかな身体作りに努めた。幼児が園庭に出て意欲的に遊び出す姿につながった。またクラスでの活動の中で、鬼ごっこやドッチボール、かくれんぼなどの遊びを発達に合わせて進めた。教師が仲介しながら、自分たちでルールを考え工夫して遊ぶ姿や諦めずに取り組む姿につながった。９８％以上の保護者から「戸外で遊ぶことが好きになった」「体力がついた」との回答を得られ、年間を通して夢中になって遊ぶ体験ができた。 ・幼児が野菜や花を植え、水やり、肥料置きなどの世話をして育てることで、生長していく様子に興味や関心が広がった。育てた物を食べる食育体験は、食べ物を大切にする気持ちを培い、苦手な物も食べようとする意欲につながった。 ・幼児は、戸外でパンジーの花での色水づくり、ツマグロヒョウモンやアゲハチョウ、セミなどの昆虫採集、モミジやイチョウの落ち葉拾いなど身近な自然にふれて遊ぶことができた。また昆虫を飼育し観察したり、落ち葉を使い製作を楽しんだりできた。 ・地域との連携・協力を得て、季節感を感じられるような園外保育（梅ちぎり、ドングリ拾い、味噌蔵見学など）を実施できた。また、保護者と共に梅を漬けて食したり、木の実を遊びに取り入れたり、自然物に触れる貴重な体験となった。今後も、幼児の体力に合わせて園外保育を計画的に取り入れ、感動体験につなげていきたい。	

重点２	高い自尊感情を持つ幼児の育成	4
成果と課題	・幼児が様々な行動で表現する思いをじっくりと聴き、気持ちをくみ取るよう心がけた。自分の気持ちが相手に伝わる経験が増えると、安心感を持ち話す意欲が増した。また、周りの幼児が「～なの？」と問いかけ、相手の思いを知ろうとするかかわりも増えた。一人一人の思いを話す機会を意図的に作ったり、教師や友だちの話を落ち着いて聴く環境を考慮したりした。しかし「人の話を聴こうとしますか」の項目において、保護者の評価が８１％と低く、今後は幼児が意識をもち、話を聴こうとする取り組みが必要である。 ・挨拶に関しては園生活の中で意識し、教師が一人一人の名前を呼び、顔を見て挨拶をするよう心がけてきた。幼児が自分から進んで挨拶ができるように、今後も保護者と共に挨拶を交わす心地よさが感じられる取り組みを続けたい。 ・一人一人の幼児を認める・ほめるかかわりを大事にし、自己肯定感を高められるよう努めてきた。クラスの中で幼児の姿を伝える中で、頑張りを互いに認め、それぞれの思いやその違いを大切にするクラスづくりに努めた。一人一人の幼児の表情が明るくなり、自信をもって取り組む姿が多くなっている。	

重点３	地域・保護者との連携を密にし、協働する教育の推進	3
成果と課題	・あそび会の毎月の誕生会では、在園児とのふれ合いを大事にした交流を行った。また、保育園、小学校、中学校との交流についても、事前に内容を検討し充実できた。 ・地域の特色を活かし、梅ちぎりや梅ジュースづくり、栗拾いなどに取り組んだ。 今後さらに、地域の方とふれ合う機会がもてるよう活動を工夫し、地域へ親しみやつながりが感じられるようにしていきたい。 ・降園時、徒歩や自転車の際は、保護者の見守る中で園庭で遊ぶ姿があり、友だち関係、遊ぶ様子などを実際に見て知ってもらう機会となった。また、日々の送迎時に、幼児の様子や活動を伝え、保護者の思いや家庭での様子を聞き取り、かかわりを共有することに努めた。また、懇談会やクラス便り、ホームページなどを通して、クラスの様子や幼児の変化・成長の発信にも努めた。今後も積極的に情報発信し、連携を取り合いながら教育の充実に努めたい。	

重点４	学び合い、聞き合い互いに高めあえる職員集団の形成	3
成果と課題	・園内研修では遊びの充実のため、エピソード記録を活用した話し合いや、職員間で指導のあり方を共有する意見交流を行った。職員間で共通認識をもち、保育態勢、幼児へのかかわり方の見直しを図り、保育を進めることができた。今後も保育内容を職員間で考え合い、高め合える職員集団の形成に努める。 ・日々の記録から、人権・同和教育の視点で、全クラスの課題や方策について皆で考え合う研修を進めた。職員それぞれの取り組みを伝え合い、自らの見方をや考え方を見直し、保育の振り返りにつながった。 ・大学などの他機関と連携した研修を行った。より専門的な捉え方や幼児理解ができ、集団の中での共に育ちあう取り組みや、自尊感情を高めるかかわりなどを学ぶ機会となった。	

２　改善方針

＜重点１＞
・行事などの精選と共に、教育活動をより有意義なものとなるよう、余裕をもって活動を計画したり準備していく必要がある。

＜重点２＞
・挨拶については、職員が全園児に声をかけていくという意識をもち、より積極的に行う。保護者や来園者などにも職員が挨拶を率先して行い推進していく。
・聴く力の育成には、まずは教師が一人一人の幼児の思いをじっくり聴く必要がある。教師や友だちと安心して対話する経験を通して、「話す」「聴く」ことの心地よさを感じながら身につけられるようにしていきたい。また、幼児が教師の話を楽しみにしたり、最後まで聴くことができるような魅力ある話し方や技術を身につけ、聴きたくなる環境づくりに努めていく。

＜重点3＞
・保護者とともに心地よく園生活を送り、気軽に相談できるような雰囲気や、保護者がつながり合えるような環境作りに努める。
・お世話になった地域の方を幼稚園に招待し、地域の方との活動が教育力の向上と教育活動の充実に結びついていることを知ってもらう機会にしていく。
・今後は、地域のよさに視点をあてながら幼児が地域の人に親しみを感じたり、感謝の気持ちがもてるような取り組みを考慮し計画していく。

＜重点4＞
・今後も研修の機会を活用し、一人一人の幼児を職員間で共通理解をし、連携をしながらかかわることが大切である。また、職員間で互いにそれぞれの知識や実践を還流し合い高め合いながら、質の高い保育につなげていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 泊山幼稚園　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	豊かな体験と夢中になれる遊びの充実	4
成果と課題	・１学期より魅力ある環境構成を考慮し、平均台、トランポリン、ジャンプ台などの教具を活用し、しなやかな身体作りに努めた。幼児が園庭に出て意欲的に遊び出す姿につながった。またクラスでの活動の中で、鬼ごっこやドッチボール、かくれんぼなどの遊びを発達に合わせて進めた。教師が仲介しながら、自分たちでルールを考え工夫して遊ぶ姿や諦めずに取り組む姿につながった。９８％以上の保護者から「戸外で遊ぶことが好きになった」「体力がついた」との回答を得られ、年間を通して夢中になって遊ぶ体験ができた。 ・幼児が野菜や花を植え、水やり、肥料置きなどの世話をして育てることで、生長していく様子に興味や関心が広がった。育てた物を食べる食育体験は、食べ物を大切にする気持ちを培い、苦手な物も食べようとする意欲につながった。 ・幼児は、戸外でパンジーの花での色水づくり、ツマグロヒョウモンやアゲハチョウ、セミなどの昆虫採集、モミジやイチョウの落ち葉拾いなど身近な自然にふれて遊ぶことができた。また昆虫を飼育し観察したり、落ち葉を使い製作を楽しんだりできた。 ・地域との連携・協力を得て、季節感を感じられるような園外保育（梅ちぎり、ドングリ拾い、味噌蔵見学など）を実施できた。また、保護者と共に梅を漬けて食したり、木の実を遊びに取り入れたり、自然物に触れる貴重な体験となった。今後も、幼児の体力に合わせて園外保育を計画的に取り入れ、感動体験につなげていきたい。	

重点２	高い自尊感情を持つ幼児の育成	4
成果と課題	・幼児が様々な行動で表現する思いをじっくりと聴き、気持ちをくみ取るよう心がけた。自分の気持ちが相手に伝わる経験が増えると、安心感を持ち話す意欲が増した。また、周りの幼児が「～なの？」と問いかけ、相手の思いを知ろうとするかかわりも増えた。一人一人の思いを話す機会を意図的に作ったり、教師や友だちの話を落ち着いて聴く環境を考慮したりした。しかし「人の話を聴こうとしますか」の項目において、保護者の評価が８１％と低く、今後は幼児が意識をもち、話を聴こうとする取り組みが必要である。 ・挨拶に関しては園生活の中で意識し、教師が一人一人の名前を呼び、顔を見て挨拶をするよう心がけてきた。幼児が自分から進んで挨拶ができるように、今後も保護者と共に挨拶を交わす心地よさが感じられる取り組みを続けたい。 ・一人一人の幼児を認める・ほめるかかわりを大事にし、自己肯定感を高められるよう努めてきた。クラスの中で幼児の姿を伝える中で、頑張りを互いに認め、それぞれの思いやその違いを大切にするクラスづくりに努めた。一人一人の幼児の表情が明るくなり、自信をもって取り組む姿が多くなっている。	

重点３	地域・保護者との連携を密にし、協働する教育の推進	3
成果と課題	・あそび会の毎月の誕生会では、在園児とのふれ合いを大事にした交流を行った。また、保育園、小学校、中学校との交流についても、事前に内容を検討し充実できた。 ・地域の特色を活かし、梅ちぎりや梅ジュースづくり、栗拾いなどに取り組んだ。 今後さらに、地域の方とふれ合う機会がもてるよう活動を工夫し、地域へ親しみやつながりが感じられるようにしていきたい。 ・降園時、徒歩や自転車の際は、保護者の見守る中で園庭で遊ぶ姿があり、友だち関係、遊ぶ様子などを実際に見て知ってもらう機会となった。また、日々の送迎時に、幼児の様子や活動を伝え、保護者の思いや家庭での様子を聞き取り、かかわりを共有することに努めた。また、懇談会やクラス便り、ホームページなどを通して、クラスの様子や幼児の変化・成長の発信にも努めた。今後も積極的に情報発信し、連携を取り合いながら教育の充実に努めたい。	

重点４	学び合い、聞き合い互いに高めあえる職員集団の形成	3
成果と課題	・園内研修では遊びの充実のため、エピソード記録を活用した話し合いや、職員間で指導のあり方を共有する意見交流を行った。職員間で共通認識をもち、保育態勢、幼児へのかかわり方の見直しを図り、保育を進めることができた。今後も保育内容を職員間で考え合い、高め合える職員集団の形成に努める。 ・日々の記録から、人権・同和教育の視点で、全クラスの課題や方策について皆で考え合う研修を進めた。職員それぞれの取り組みを伝え合い、自らの見方をや考え方を見直し、保育の振り返りにつながった。 ・大学などの他機関と連携した研修を行った。より専門的な捉え方や幼児理解ができ、集団の中での共に育ちあう取り組みや、自尊感情を高めるかかわりなどを学ぶ機会となった。	

２　改善方針

＜重点１＞
・行事などの精選と共に、教育活動をより有意義なものとなるよう、余裕をもって活動を計画したり準備していく必要がある。

＜重点２＞
・挨拶については、職員が全園児に声をかけていくという意識をもち、より積極的に行う。保護者や来園者などにも職員が挨拶を率先して行い推進していく。
・聴く力の育成には、まずは教師が一人一人の幼児の思いをじっくり聴く必要がある。教師や友だちと安心して対話する経験を通して、「話す」「聴く」ことの心地よさを感じながら身につけられるようにしていきたい。また、幼児が教師の話を楽しみにしたり、最後まで聴くことができるような魅力ある話し方や技術を身につけ、聴きたくなる環境づくりに努めていく。

＜重点3＞
・保護者とともに心地よく園生活を送り、気軽に相談できるような雰囲気や、保護者がつながり合えるような環境作りに努める。
・お世話になった地域の方を幼稚園に招待し、地域の方との活動が教育力の向上と教育活動の充実に結びついていることを知ってもらう機会にしていく。
・今後は、地域のよさに視点をあてながら幼児が地域の人に親しみを感じたり、感謝の気持ちがもてるような取り組みを考慮し計画していく。

＜重点4＞
・今後も研修の機会を活用し、一人一人の幼児を職員間で共通理解をし、連携をしながらかかわることが大切である。また、職員間で互いにそれぞれの知識や実践を還流し合い高め合いながら、質の高い保育につなげていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　内部幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	健康な心と体の育成	3
成果と課題	・手洗いうがい、身の回りの始末など基本的生活習慣を身につけることができるよう、声かけの工夫や、見届けを行うことで、丁寧に行おうとする幼児が増えてきた。早寝早起きの習慣も、幼児に合った生活を保護者に理解、協力していただいたことで身についてきている。「なぜ、それが大切なのか」を理解して取り組むことができるよう、今後も継続して見守り、励ましていく必要がある。 ・はげまし隊さんとの畑の活動では、植えつけ、収穫、それをクッキングしてみんなで食べたりするなど、様々な経験ができた。また、調理の前に、使う食材（野菜）を並べることで、季節の野菜を知ったり、野菜の大きさや重さを感じたりすることができた。 ・鬼ごっこやボール遊びなど、戸外で体を思い切り動かして遊ぶ中で、力いっぱい走ったり、とまったり、よけたりするなど、様々な体の動かし方を経験することができた。竹馬や鉄棒など、少し難しいことにも根気よく取り組めるよう、教師は誘いかけたり励ましたりしていった。幼児がより意欲的に挑戦できるよう、環境構成や教師のかかわりをもっと工夫していけるとよかった。徒歩登園に協力してもらう家庭が増え、体力づくりにつながった。	

重点２	コミュニケーション力の育成	3
成果と課題	・教師が一人一人の思いをしっかりと丁寧に受けとめたことで、安心して園生活をおくる姿がみられた。一緒に遊んで“楽しかった”“おもしろかった”という経験を重ねる中で、友だちと気持ちを通い合わせることの心地よさを感じることができた。また、教師が間に入りながら互いの思いを受け止めていく中で、相手の思いや気持ちに気づき、どうしたらよいかを考えることができるようになってきた。友だちの考えに触れることが、活動の広がりのきっかけにもなった。 ・一緒に生活する中で、慣れてくると「きっと、～だろう。」と、相手の気持ちを先回りして動く姿や、困ったことがあってもそのままにしてしまう姿がみられた。その都度、教師も一緒に立ち止まりながら、幼児がお互いに自分の気持ちを伝えあう場面を作り、ともに考え合う姿勢を大切に取り組んでいるところである。 ・教師が気持ちのよいあいさつを心がけ、毎日根気よく取り組むことで、元気にあいさつをする幼児が増えてきている。保護者アンケートからは、幼児が自らあいさつをする姿が少ないとの意見もあったので、引き続き、あいさつをする気持ちよさを伝えていくことができるようにしたい。	

重点３	学びにつながる意欲の育成	3
成果と課題	・幼児の興味、関心を探りながら、その都度環境を再構成し、教材を整えることで、幼児はやりたい気持ちを満足したり、やってみようとする意欲を持ったりすることができた。幼児が自ら遊びの環境を作り出し、イメージを広げたり、試行錯誤を楽しんだりする姿がみられた。 ・自然の中にある、生き物や科学的現象に興味を持つ幼児が多かった。自然の不思議さやおもしろさに心を動かす幼児の気持ちに共感したり、観察ケースや図鑑を身近なところにおくなど、幼児が興味を深めていくことができるような声かけや援助をしたことで、よりたくさんの感動や気づき、発見に出会うことができ、学ぶ喜びにつながった。 ・幼児の遊びの場面に注目し、何が幼児の学びなのか、幼児がより主体的に探究したり、工夫したりすることができるような刺激のある環境構成とはどのようなものか、職員間で話し合う機会を設け資質向上につなげる。	

重点４	保護者・地域との連携・協働	4
成果と課題	・登降園時に保護者と園や家庭での様子を話す中で、幼児の育ちについてともに喜んだり、考えたりすることができた。 ・今年度から「うつべっこおやじ隊」を発足し、年に数回男性保護者にも保育の中に参画してもらうことができた。また、畑の活動などボランティアを募ることで普段の保育を見てもらいながら意見を聞き、保育改善に活かすことができた。絵本ボランティアの活動の中では、絵本のよさについて発信することができた。また、子どもと共に保護者も絵本に親しむ機会を作ったり、絵本の整理などを一緒にしたことで、楽しみながら共に子育てについて考えることができた。 ・年間を通して、地域の「うつべっこはげまし隊」との交流がもててよかった。今年度は竹とんぼづくりを教えてもらうことで、より親しみをもってかかわることができた。２月には「ありがとう会」を実施し、感謝の気持ちを伝える経験もできた。	

２　改善方針

・「早ね・早おき・朝ごはん」や手洗いうがい、日常のあいさつの習慣、食育の取り組みなど、その大切さや園での取り組みを発信しながら、これからも家庭と連携をとりながら粘り強く取り組んでいきたい。

・思いを伝えあいながら、取り組む充実感を味わうことができるように、様々な活動の中で幼児が関心を持って取り組み、自分の力を発揮する姿を捉え、集団の中でその良さが受け止められるような教師のかかわりについて研修していく。

・毎日の保育の中で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、言葉がけや環境設定など、就学への見通しをもった保育に取り組めるよう、教育課程のねらいが達成できるような手立てについてより具体的に考えていきたい。そのために園内研修を計画的に設け、自分の見方や考え方を客観視し、幼児理解を深めていきたい。

・園の教育活動や子どもたちの状況について、公開保育やドキュメンテーションなどで可視化・発信し、保護者や地域の方と情報を共有するとともに、意見をいただき、振り返りながら、園の教育について理解していただけるよう努めていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　川島幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	心身ともにたくましい子どもを育てる	3
成果と課題	・主体的な遊びの場や時間を確保し、園内の環境を生かした活動を展開してきたことで、体を動かす楽しさや友だちと触れ合う嬉しさを感じることができた。 ・サーキット遊びやリズム遊びでは、「跳ぶ」「這う」「くぐる」など様々な動きを取り入れてきたが、継続的に行えるような工夫が必要である。 ・定期的に園内研修を行ったが、さらに日常的に幼児の姿を読み取り、ねらいや環境構成の振り返りを行い、ビジョン重点についての可視化された研修を行っていくようにする。 ・栽培活動や収穫祭などの食育活動では、園児・保護者ともに楽しみながら取り組むことができた。幼児が主体となるように、収穫・買い物体験・クッキングなど臨機応変に計画するように配慮した。合わせて地域交流を行い、幼児の充実感につながった。 ・収穫祭や給食では、当番活動として三食表を活用した食材表示を行ってきた。また保護者向けに掲示を行い、バランスのよい食事について発信してきたことで、食材への関心や食への意欲につなげることができた。	

重点２	自分の思いを出しながら遊びに夢中になる子どもを育てる	3
成果と課題	・四季の自然を五感で感じられるように、身近な地域の環境に触れる機会を持つようにしてきた。また感じたことを表現する場面を大切にし、保育内容に取り入れてきたことで、自然への興味・関心が広がり、生活に取り入れようとする姿が見られた。 ・自分の思いを出せるように、段階的な手立てを行い、表現できるようにしてきた。すすんで挨拶をしたり、自信をもって当番活動をやり遂げたりするなど、意欲的に活動に取り組む姿に変容してきた。今後はさらに、他園や小中学校、地域との交流を持つことで、同年齢や異年齢など様々な人とのかかわりの中で、自己表現したり、相手の思いを受け止めたりする経験ができるようにしていく。 ・一人一人の興味・関心をとらえ、遊びの環境として広げてきたことで、友だちのよさに気づき、自己肯定感につながった。また異年令のかかわりを十分にできる環境を考慮してきたことで、互いを認め合う仲間づくりにつながった。 ・鬼ごっこやわらべ歌などの伝承遊びを継続してきたことで、集団で遊ぶ楽しさを感じることができた。 ・当番活動やクラス・学年でする活動の中では、やり方がわかることで安心して自分を出せる姿が見られた。さらに今後は、わらべ歌や伝承遊び、集団遊びなど遊びの中で自分の思いを出したり、相手の思いに気づいたりできる場面を意図的に作っていくようにする。	

重点３	家庭や地域との連携を深め、教育内容に反映し、その充実を図る	4
成果と課題	・毎月の避難訓練の内容を保護者に伝え、園児・保護者・職員とともに防災意識を持つようにしてきた。地区市民センター内の防災倉庫の見学を行い、幼児なりに防災について考える機会につながった。今後も継続し、防災意識を高めていくようにする。また、降園時に職員が途中まで同伴し、親子での交通安全指導を行い、日々の安全指導につながるようにした。 ・地域の老人会や協力者に対し親しみを感じたり、地域行事に楽しんで参加したりすることができた。園児や保護者が地域のことを知り、愛着を感じることで、豊かな人間性の基盤につながっている。園児や職員が感じたことを、さらに保護者や地域に伝えていくことが必要である。 ・保護者と共に子どもの健やかな成長を願い、連携を深めていくには、日頃の姿や成長している姿をとらえ、降園時の「ふれあいタイム」などを利用してコミュニケーションを図っていく。 ・子どもの誕生会に「ファミリーティーチャー」として保護者の参加を依頼し、クラスの幼児と触れ合う機会を設けた。今後は保護者も楽しみながらかかわる機会にしていく。	

２　改善方針

・集団として刺激を受けながら育ち合える工夫していく。幼児の興味から遊びを深めたり、教師が遊びを知らせたりしながら、丁寧に幼児の姿を読み取り、自らやってみようとする姿につながるような手立てを考えていく。
・それぞれの発達を保障する為に、混合クラスで行う保育内容と学年別のカリキュラムを具体的に示していく。
・幼児期の終わりまでに育みたい１０の姿について共通理解できるよう、写真やエピソードを出し合い、保護者に伝えていく。
・ビジョンの重点に対して、実践検討ができるように計画的に園内研修をもつ。
・テラスなどの環境を活用し、普段の遊びの中で体を使った活動ができるような工夫をする。またサーキット遊びでは巧技台の準備など十分な安全面の配慮が必要である。計画的に行う為には、事前準備や片づける環境を見直すことで負担なく行えるようにする。
・PTA行事や遊び会、地域の人との交流の機会などを活用し、子どもたちが活躍する場を作っていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　神前幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	コミュニケーション力を育む教育実践	3
成果と課題	・教師に思いを伝える姿、聞いてもらう、引き出してもらう経験から、友だちの思いに気持ちを巡らせたり、解決策を考え合ったりする姿が見られる。一方で言葉で表現しにくかったり、相手の気持ちを優先し、自分の気持ちを伝えられずにいる幼児の姿もあるため、個々に合わせたかかわりを続けていきたい。 ・挨拶の推進については日常的な挨拶は進んでできる幼児がほとんどであるが、訪問者や園外で出会った人への挨拶は教師から促されてすることが多い。今後も気持ちよく挨拶している姿を認めながら、誰とでも進んで挨拶ができるように取り組んでいきたい。 ・「聞く」「話す」「伝える」力の育成については、話したい事、伝えたい事を積極的に話す、伝える幼児が多いが、場に応じた話し方、伝え方や聞くことについては今後も継続して指導する。教師自身の話し方や、伝え方を見直し、どのように話せば伝わるのか、どの言葉を使えば、理解しやすく最後まで聞けるのかなど、評価反省しながら指導に生かしていきたい。	

重点２	共に育ちあう教育実践	3
成果と課題	・幼児が遊びの中で育ちあえるような環境の工夫を考えてきた。夢中になって遊び込む姿につながるよう、今後も幼児の興味関心を探りながら適切な環境の構成を考えていきたい。 ・幼児の興味関心を探りながら環境の工夫に努めてきたが、少人数で遊びの広がりや深まりがもてるように、今後も幼児が遊び込むための環境の工夫と幼児理解を深めながら教育実践を進めていきたい。 ・自ら気づき、考え、行動する意欲の育成については、自分のことや相手のことをよく知ることが大切である。日常の保育の中で幼児同士が相手を意識し、多面的にとらえ相手を尊重していけるような教師のまなざしと援助を心がけたい。 ・主に５歳児では幼児同士で生活や遊びを進めていけるような教師のかかわりや環境構成を工夫した。日々の当番活動やグループ活動など２、３人で話し合ったり活動したりする中で、助け合ったり、協力したり幼児同士で学び合い育ちあう姿もあった。 ・トラブルや困ったことがあった時に、周囲の幼児が気づき、一緒に考えることが出来るよう丁寧にかかわってきた。幼児同士が互いを気にかけ合う姿が育っている。人とのかかわりを心地よく感じ、大切にしていけるかかわりを続けていきたい。	

重点３	健康な心と体を育む	4
成果と課題	・４歳児は生活習慣については入園までの経験が異なるため、個々に応じて丁寧なかかわりを実践した。「自分でやろう」、「出来た」と成功体験を積み重ね、力がついてきた。時間がかかることもあるが、自分の力でやり切れるようになっている。 ・健康な体づくりの推進については、戸外で体を動かして遊べるよう教師も共に遊びながら取り組んできた。自ら活動するのみならず、学級活動としてマラソンをしたり様々な固定遊具や運動に挑戦する機会を意図的に持ったことで、体を動かすことや運動に消極的だった幼児が少しずつではあるが、自ら体を動かし運動してみようという気持ちを持てるようになってきている。今後も取り組みを継続していく。 ・食育の推進については、栽培活動の充実とともに計画的に進めることが出来た。自分たちで育てた野菜を収穫し、調理して食べる活動を月一回以上行ったことで様々な食材や食べ方、味を知ることが出来た。また、栽培活動において、地域の方との交流も深めることが出来た。今後も積極的に取り組みを進めていくようにする。また、園で収穫し持ち帰った野菜を翌日の弁当に入れてもらうこともあり、家庭での取り組みも見られた。 ・体の使い方がぎこちない幼児や、苦手と感じたものに取り組みづらい幼児の姿があり、日々の姿勢保持や活動の中での動きを意識してきた。園外への遠足や散歩での体作りや、鬼遊びや固定遊具、ボール遊びなど思い切り体を動かし、楽しみながら様々な動きを経験できるように工夫した。	

重点４	人権・同和教育の充実	4
成果と課題	・幼児一人一人の家庭背景や保護者の思いなどを把握し、個別に丁寧にかかわることを大切にしてきたことで、幼児（たち）は自分が大切な存在であると感じ安心して園生活を送ることが出来た。 ・教職員自身が職員間や地域の方と話し合ったり、研修に積極的に参加したりするなどして自分の人権感覚を問い直す機会を持ち、保育に生かしていくように心がけた。そのことで、幼児の見方や捉え方を常に振り返り、幼児理解を深めて保育を進めてきた。幼児同士では友だちの良さを認め合えるようにもなってきたが、自分の思いが先行する姿もまだまだあるので、友だちの気持ちにも寄り添い、自分も相手も大切に思えるよう、今後も丁寧にかかわっていきたい。 ・自分や友だちのことを大切に感じる気持ちの育成については、一人一人の幼児が家庭でも園でも大切にされている。大切にされていることを充分味わうことで、相手のことも大切にしようとする。友だち同士が互いを大切にしようとする場面が日々の保育の中で多く見られた。しかし、時として自分のことを優先してしまうこともある。成長、発達する過程の一つの姿としてとらえながら、その姿を否定するのではなく、気持ちを切り替えたり、違った行動・表現の仕方もあることを伝えながら、自分も相手のことも大切に思える気持ちを育てていきたい。 ・日々の出来事や、幼児の姿を保護者と共有したり、同和問題懇談会の場やその後の話の中で、子育てや子どものことについて思いを交わしたりし、よりよい子どもの育ちについて考えることが出来た。	

重点５	家庭や地域とともに進める教育活動の充実	4
成果と課題	・園の教育活動を保護者とともに進めていくことができた。園での教育活動のねらいや取り組みを伝え、家庭でも取り組んでもらったことで幼児の成長や発達がより深められたと感じる。幼児自身の自発的な行動を促したり見守ったりすることも大切であることを伝えながら、今後も家庭や地域と共に子育て・園での教育活動を進めていきたい。 ・園外に出たり、保育園と交流を持ったりする機会が多くあり、地域の方ともたくさん触れ合うことが出来た。今後も様々な活動に参加しながら地域の方との交流を深めていくことが幼児の成長につながると感じる。 ・園内外での豊かな体験活動の充実については、これまでに積み上げてきた教育実践の土台があり、家庭や地域からの協力、支援も大きい。今年度も体験活動を多く取り入れ、実践できた。今後は更にこの土台を大切にしながら、幼児の姿に合わせた工夫をしながら取り組んでいきたい。 ・人との出会いやつながりを大切にした交流活動を計画的に取り組むことが出来た。少人数の混合学級で、園内では経験できない大勢の中での活動や、様々な交流を通し、人とかかわることの楽しさや大切さ、難しさも味わうことが出来た。	

２　改善方針

・集団生活の確保や、育ち合う場や機会作りをより意識していく必要がある。保育園ととの交流をさらに進め、教師・保育士同士の意識の共有や連携を大切にしていきたい。 ・少人数での教育活動には幼児の姿に合わせて様々な工夫をしたり、再考したりしていくことが大切である。自分のことを自分で行う力や、自分で考えて行動する力を育むための保育環境や教師のかかわり方について、一人一人の幼児の姿と内面をしっかりととらえ、どんな環境を用意するのか、どのように援助すればよいのかを日常的に評価、反省し、教育活動の充実に努め、保育の質を高めていく必要がある。 ・学びの一体化研修の取り組みを進めながら、地域としての保育、教育内容の充実を図っていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　三重幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	友だちのありのままの姿を受け入れられる幼児の育成	3
成果と課題	○自分なりの言葉で相手に思いを伝えようとしたり、互いに気にかけ合う姿の中で、安心して話をしようとする幼児の姿があった。 　教師が幼児の思いを受け止め、共感していくことで話すことが好きになり、友だちのことをそのまま受け入れていく幼児の姿があった。その積み重ねが友だちとのかかわりを深めることにつながっていった。 ○様々な葛藤を乗り越えていく過程の中でお互いに認め合ったり、それぞれの姿を受け入れていく気持ちが育った。 ○初めての活動に不安を感じやすい幼児に対して教師が言葉をかけていくことで、周りの幼児も声を掛け合う姿があった。 ○幼児が友だちの姿を受け入れながらかかわっているなど成長した姿を家庭に伝えられるように発信の方法も考えていく必要がある。	

重点２	友だちと一緒におもいきり身体を動かして遊びを楽しむ幼児の育成	3
成果と課題	○４歳児、５歳児が混ざり合いながらけいどろやリレーなど身体を動かして遊ぶ楽しさを一年中継続して感じることができた。戸外遊びの少なかった幼児も身体を動かす経験をし、楽しむようになった。 ○幼児自身が遊び方や場の設定を工夫して様々な遊びを楽しむ姿が増えた。個々の遊びや経験を積み重ねていく中で、集団遊びやルールのある遊びへと広がっていった。 ○おにごっこやリレーなど遊びに新しいルールを考えるなど遊びを深めることはできた。今後はいろいろな遊びが経験できるようかかわっていきたい。 ○むっくりくまさん、へびじゃんけん、おにごっこなどクラスで共有することで自らの遊びでも友だちを誘い合うようになった。 ○運動遊びの経験は個人差もあるので、個々に合わせてかかわっていくようにしたい。	

重点３	楽しく豊かに自然と関わる幼児の育成	3
成果と課題	○飼育ケースを幼児が見やすい位置に設定することで昆虫の成長を見ることができ、命の尊さに触れることができた。 ○植物や小動物の成長・自然現象に気づき興味をもつようになった。自然物を遊びに取り入れ、触れることで、身近に感じることができた。 ○園内で様々な野菜を育てることや柿狩り、みかん狩りに出かけ、四季折々の自然に触れ体験することで、発見や気づきを楽しむ姿がでてきた。 ○地域の方の協力を得て充実した自然体験ができたが、地域の方とふれあう機会が少なかった。地域の方とのふれあいを計画に取り入れていけるようにする。	

重点４	学び合い、聴き合い、互いに高め合える職員集団の育成	3
成果と課題	○保育後に幼児の姿を話し合ったり、気づいたことを共有していくことで、職員の共通理解を深めることができた。職員が研修で学んできたことを交流することで一人一人の学びを深めることができ、保育にも活かすことができた。 ○専門機関との連携により専門的な視点で指導をいただき、先の見通しをもって保育を進めていくことができたり、教師の人権意識に改めて気づかされ学ぶことができた。今後も連携を続けながら専門知識を深めたり、人権の視点にたって日々の保育をみつめなおしていきたい。 ○計画的に園内研修を位置づけながら、具体的なねらいや経験してほしい保育内容についてさらに話し合いを深めていきたい。	

２　改善方針

○友だちのことをありのままに受け止めていくためには、幼児が受け止めてもらっていると実感できることが大切である。幼児が友だちの姿を受け入れながら関わっている姿などをおたよりやボードなど、発信の仕方を工夫し、保護者との共有をすすめていきたい。 ○今後も活動の中に、幼児同士で話し合う、聴き合うことを、教師が意識して取り入れていくことで幼児同士の関わりを深めていく。 ○好きな遊びを十分に楽しめる環境や教師の援助を工夫しながらも、身体を動かして遊ぶ中で育つ力を教師が理解し、クラス活動にも取り入れる。 ○幼児が十分に身体を動かして遊べる環境が少なくなってきた背景を捉えながら、園での身体づくりの体験ができる機会を増やしていく。 ○固定遊具では身体のどこの部分の育ちにつながっているかも教師が意識しながら取り組んでいく。 ○生活習慣が身につくように引き続き個別に丁寧に指導していくと共に、幼児に生活習慣の大切さも知らせながら、幼児が自発的にできるようにしていく。 ○ひき続き幼児一人一人の目標を明確にし、目標に向かった保育の内容を見通しをもって計画的に行う。その都度活動を振り返りながら幼児の成長につながっていくように話し合いを充実させていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　保々幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	**「夢中になってあそぶ〈学ぶ〉教育内容の充実」**	4
成果と課題	〇園ビジョンアンケートの結果「お子さんは、園が好きで登園をよろこんでいますか。」「園の生活や遊びが楽しいと言っていますか。」「戸外で遊ぶことが好きになりましたか。」「遊びの種類や生活体験が増えましたか。」項目を始め、半数の項目でそう思う・おおむねそう思うで１００％の評価であった。一人一人の姿を丁寧にとらえ、好きな遊びを通して、安心して園生活が送れることを第一に取り組んできたことがこのような姿につながったと考えられる。 〇新しい遊びへ挑戦していく力や、その過程で先生や友だちとかかわり、自分の思いを表現したり、相手の思いに気づけることに重点をおいた。運動会のリレーなどで、仲間とともに悩んだり考えたり協力する機会を作り、自分の思いを言葉で表現することが苦手な友だちの思いを受け止めたり、自分なりにその友だちの思いを考えて、かかわったりする姿が増えた。また、当番活動では役割を相談して決め、最後まで責任を持って取り組む姿がみられた。自分の役割だけでなく、グループとして最後まで当番活動を終えたという責任感と自信を育てることができた。 ◎自分の思いを友だちや大勢の前では自信を持って表現することが難しい幼児もいる。遊びの中で興味や楽しさを感じることで、自信が持てるように環境設定・配慮に対する工夫がこれからも必要である。	

重点２	**「保･幼･小･中･高との連携の充実」**	3
成果と課題	〇互いの公開保育・授業を見て事後研を行い、保・小・中の先生と、乳幼児期の取り組みがその後の将来にどうつながっているのかを討議した。自分たちが保育の中でどんな育ちの視点を持ち、どんな力をつけていく必要があるのか見直す機会となった。 〇２学期から保育園と園舎を共有して過ごしたことで、園児や職員との交流を今まで以上に行うことができた。子どもたちは、様々な人と過ごしたり触れ合ったりすることで遊びの種類が増え、いろいろな遊びに興味をもったり体験したりすることができた。 また、子どもの姿を中心に据えて、保幼の職員で保育や行事について積極的に意見を交わす機会が増えた。 ◎公開保育後の研修で振り返ったことをその後の保育に活かしていくことができているかどうかを検証していく必要がある。また、その取り組みが部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくす取組になっているかという視点での振り返りを意識していく必要がある。	

重点３	**保護者･地域との連携と協働**	4
成果と課題	〇地域のボランティアの方々による絵本の読み聞かせ、大豆拾い体験・石臼を使ったきな粉づくりなど地域の方とかかわりが持てる活動を通して、親しみを持って身近な人とかかわる姿が見られた。 〇お店屋さんやハロウィンなど保護者主催の行事後、子どもたちの遊びの中に保護者にしてもらったことを自分たちなりに再現して楽しもうとする姿が見られた。親子で楽しむ行事を通して、親子・園で楽しさを共有したり、子どもの成長をともに喜ぶことができた。 〇園ビジョンのテーマである「こころのふるさと保々のまち」をより知るために園外活動を昨年より多く実施した。安全な川辺で魚釣りを経験したり、地域の商店で買い物をしたりなど園外の環境を活かした経験をすることができた。年長児の家を順番に訪問する「家めぐり」では、子どもたち同士が家庭や地域で見聞きしたことを自分から話そうとするきっかけになった。また、友だちに家へ来てもらうことで、ありのままの自分を知ってもらうことにつながり、クラス内の仲間づくりにつながった。また、人権プラザや小学校・中学校など、これからの人生でかかわっていく場所で職員や生徒と触れ合うことで、色々な人が自分たちを見守ってくれていることを知ることができ、進学への安心感と憧れの気持ちを持つことにつながった。	

２　改善方針

◎保育・遊びの中での姿を職員間で共有し、表現・発言することへの不安がどこにあるのかを多面的にとらえることで、一人一人の成長に合わせた手立てを再検討していく。
◎園内研や保護者と人権について語り合う「ふきのとう」の場などを活用して、自分自身の人権意識を問い直す機会を増やしていく。保育日誌や実践の振り返りとも合わせて、反差別の視点で意識していることと保育で取り組んでいることが、子どものどんな姿に表れているかを話し合う。
◎保・小・中など学校機関との連携は密であるが、地域の方のつながりという点では、さらに深めていける部分がある。地域との交流に対するねらいや、内容の発信を写真などを使って分かりやすくし、保護者により伝わるようにする。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　下野幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	健康な心と体づくり	4
成果と課題	・戸外で遊ぶことを好む幼児が多く、園庭でドッジボール、鬼ごっこ、リレーなど体を使って遊ぶ楽しさを感じることが出来た。教師も共に体を動かし楽しむことで、幼児も縄跳びや鉄棒などに取り組むようになった。 ・運動会を通して竹馬や竹ぽっくりなどに挑戦することが出来た。友だちや教師と励まし合ったり、認め合ったりすることで、継続して頑張る力や思いやりの気持ちが育った。 ・米作り体験や畑で野菜を育て収穫し園で調理したものを食べることで、食に興味・関心を持ち、苦手な物も食べることができるようになってきた。 ・地域の環境を生かした園外保育に出掛けることが少なかったので、年間計画に組み入れ、地域の自然に触れる機会や歩く経験を充実させていきたい。 ・今後は体の部位を使った遊びや体のバランス感覚が培われていくよう、一人一人に合ったサーキット遊びや遊具の使い方を工夫していく。	

重点２	豊かな表現力と確かな力をつける教育内容の充実	3
成果と課題	・いろいろな方法で自分の思いを表現する幼児がいる中で、一人一人の持ち味を生かせるように、保育後に職員同士で話し合ったり、定期的に園内研修を持ち検討してきた。幼児の実態把握につながり、見通しを持ったかかわり方を話し合ったことで、幼児が夢中になって遊ぶ環境を工夫することができた。 ・石鹸などを使った「泡遊び」を通して、幼児の姿を捉えながら日々環境構成を工夫してきた。1年間遊びを継続することができた。様々な発見をしたり、自分の思いを表現したりして、意欲的に集中して取り組んだ。また、一緒に遊ぶ中で、相手の気持ちに気付いたり、自分なりに表現する力の向上につながった。 ・教師が幼児の表情やしぐさなどの表現を捉え、心の奥にある思いに気付こうと努力した。今後も園内研修などを通して、幼児一人一人のかかわり方などを検討していきたい。 ・毎日の絵本の読み聞かせやボランティアによる毎月の素話などで想像力や物語をイメージして楽しむ力やじっくり話を聞く力がついてきた。	

重点３	豊かな人間性を育み、人とかかわる力を育てる	4
成果と課題	・友だちと関わる中で、様々な葛藤場面を教師が捉えて、常に幼児理解に努めようとした。教師同士が話し合うことで、次の保育に生かすことができ、また一人一人に丁寧にかかわった。幼児が次第に自分の思いを安心して伝え、自分からかかわろうとする姿につながっていった。 ・教師が幼児の日々の姿を捉えて、遊びが広がるような教材の工夫をした。4・5歳児のそれぞれの発達に応じた遊びが充実し、混合園として異年齢で関わり合って遊ぶこともでき、幼児の遊びが豊かになった。 ・今年度より混合園となり、5歳児は4歳児に優しくかかわる姿が増え、また、4歳児は5歳児に対し憧れの気持ちを持ち接するようになった。 ・大学連携研修で実践に基づき研修を深めた。今後は研修を通して学んだことを保育に生かせるよう、職員がさらに連携を深め、幼児が安心して生き生きと過ごせるように努めていきたい。	

重点４	保護者や地域や保小中と連携し、地域とつながった教育を進める	4
成果と課題	・今年度初めて、地域の方と「ボッチャ」を通して触れ合う機会を持つことができた。「ボッチャ」をしながら地域の方と一緒に手をつないだり、励まし合ったりして様々な人と交流を持つことは、幼児にとって心豊かな経験になった。 ・保幼３園交流は年間計画を立て、交流が深められた。中学生が家庭科の授業の一環で幼児と交流が持ったことは、互いに相乗効果があった。 ・運動会や発表会などの行事を通しての保護者アンケートや日々の降園後の保護者との会話の中から、保護者の思いを受け止め、教師間で話し合い改善に努めた。また、降園後に保護者と幼児の姿を伝え合い、子育ての悩みを聞く機会を作り、共に子どものことについて考え合うことができた。	

２　改善方針

・園外保育を計画的に取り入れ、地域の施設や自然を活用し、保育に取り入れていく。 ・混合クラスとして、異年齢でかかわり合えるような運動遊びやふれあい遊び、わらべうたなどを取り入れ、一人一人の遊びの充実につながるように工夫する。 ・安心安全な園生活を送るために、普段から環境の見直しを行い、意識を高めていく。 ・教師同士が常に連携し、幼児一人一人の姿を捉えて話し合うことに努めてきた。教師の感じ方や思いも様々である。今後も大学連携研修や園内研修を通して教師が語り合い、幼児一人一人を丁寧に捉え、幼児に適した必要なかかわりについて学びを深めていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　羽津幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	① 遊びを通じての学びの充実	3
成果と課題	・４歳児はイメージしたものを形にして遊びに取り入れていけるよう、教師が一緒に作りながら満足感が味わえるようにしたり、遊びの流れを見て必要なものを準備したりすることで遊びを十分に楽しみ、もっとやってみたいという意欲や自分で工夫して遊ぶ姿へと繋がっていった。 ・５歳児では個々の遊びをクラス全体で紹介することで、友だちとかかわり合って遊びを展開していく姿に繋がっていった。友だちに刺激を受けて工夫したり挑戦したりする姿が見られた。 ・リレーや鬼遊びなどルールのある遊びで遊ぶ中で、友だちと思いを出し合う機会が増え、自分なりに考えたことを友だちに伝えるようになった。友だちの考えを受け入れようとする姿が増え、折り合いをつけながら遊ぶ姿が見られるようになった。 ・学期ごとに幼児の姿や環境を振り返り検証することで、幼児の興味関心に応じた環境を作り、運動能力に繋がる遊びや思考能力に繋がる遊びが展開し、体力の向上や意欲的に遊ぶ姿に繋がった。 ・今後の課題として、一人一人の幼児が何に興味を持っているのかをより深く探り、遊びを通してどのような力をつけていきたいかを明確にすることで、継続した遊びの中での学びを充実させていくことが大切である。 ・園内での遊びは充実させることができたが、園外保育に出かけ、地域とのかかわりや自然の中で遊ぶことは不十分であった。地域の環境や人とのかかわり、体力作りのために園外保育の計画をより具体的に年間計画に組み込む必要がある。	

重点２	② 人とかかわる力の育成	3
成果と課題	・４歳児ではクラスの活動の中で、わらべうた遊びを中心にふれあい遊びを多く取り入れた。友だちとの触れ合いを心地よく感じ、自然と自分から友だちにかかわっていくようになった。また、遊びの中でイメージが共有できるよう、教材や環境を整えたことでごっこ遊びが深まった。その中で友だちと思いを出し合って遊びを広げていく姿や、友だちの良さやがんばりを言葉や表情にして伝え、認め合う姿が増えた。 ・５歳児では日常の遊びの中での伝え合いに加え、「どんな気持ちカード」を活用することで、友だちに自分の思いを表現し、伝えることの楽しさを感じられるようになった。話を聞く・思いを伝える・他の意見を聞き受け入れる等ねらいを持ち、クラス全体で話し合う機会を多く作ることで幼児自身が考え、思いを伝え合うことができるようになった。 ・友達関係の中で起こった問題に対して、一人一人が自分なりに考え、思いを伝えられるように取り組んできた。その中で、友だちの思いに気付き、寄り添うことができるようになってきた。 ・「嬉しい」「楽しい」といった気持ちだけでなく、相手の「困った」「悲しい」という気持ちも感じられるように、場面を捉えて、相手の表情から感じられるようにすることや、クラスでの話し合い、絵本などを通して、様々な表現の仕方を知ることができた。	

重点３	③ 地域や家庭、専門機関との連携の推進	3
成果と課題	・保護者が誕生会でファミリーティーチャーとして子ども達と遊ぶことで、遊びの中での子どもの姿や、新たな一面を知ってもらうきっかけが持てた。 ・不安や悩みを強く抱いている保護者とは連携を密に取る事を心掛け、積極的に声をかけていったが、自分の思いを出しづらい保護者へのかかわりは少なかった。一人一人の保護者としっかり向き合い、登降園時などを活用して個別に声をかけて、つながりを深めていく必要がある。 ・研修に参加したり外部から専門家に来てもらい研修をしたりすることで、幼児一人一人の発達に応じた支援の在り方を学ぶことができた。専門的な知識を得ることができ、具体的な手立てを学ぶことでその後の保育にいかすことができた。 ・老人会や中学生との交流では様々な人と触れ合う機会が持てた。しかし、その場だけのかかわりで終わってしまうこともあり、行事での繋がりだけになっているところがある。積極的に園外にでかけたり、日常の中でかかわりが持てたりするようにしていく。	

２　改善方針

・友だちに自分の思いをうまく伝えられず、友だちと気持ちがすれ違ったり、気持ちが不安定になったりすることがあった。どの幼児も安心して園生活を送ることができるよう、変化を見逃さず、保護者との連携もより細やかに取りながらクラス運営を進めていく。
・クラスの中にある課題や課題解決に向けての具体的な取り組み、教師の願いなどを全職員で共有し、共通認識して園全体として取り組んでいく。
・遊びの中の学びや友だちと思いを伝え合う大切さ、人と触れ合う心地よさ等を日々の会話やおたより、HP、写真の掲載などを活用して保護者や地域に発信し、園・家庭・地域が同じ思いで子どもの育ちを支えていけるようにする。
・家庭でゲームをして過ごしたり、通園に車を利用したりしている家庭が多く、体力のない幼児が多い。園内での運動遊びやリズム遊びだけでなく、園外へ行く機会を増やすことで体力作りにつなげていく。
・入園前に集団生活の経験がない幼児が多く、個々の発達や経験の差が大きいため、一人一人の幼児に合ったより丁寧な援助、指導が求められる。研修等で知識を増やし保育にいかしていく。
・中学校区の「学びの一体化」の中で、幼稚園教育における遊びの中の学びや育てている力がその後の小学校、中学校での教育にどのように繋がっていくのかを、具体例などを挙げて伝え、滑らかな接続を図っていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 富洲原幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	遊びの充実を図る	3
成果と課題	〇混合学級3年目の運営となった。毎年試行錯誤を繰り返しながら工夫をしている。少人数のクラス運営であるからこそ、一人一人の思いをしっかりと受け止めてかかわっていくことが大切であることをいつも教師自身が意識しながら保育を進めてきた。 〇４，５歳児が同じ保育室で生活をすることで、異年齢の子どもの存在を身近に感じることができ、自然なかかわりの中で刺激し合う姿があった。 ●年齢に応じたかかわりや、全体活動の工夫など、時と場合に応じた展開をすることが難しかった。４，５歳児の発達に応じてする活動については、場の工夫をしたり、４歳児にも５歳児の姿を見せるなど、活動の工夫をしてきた。年齢に応じた発達の保障については園内で話し合いを持ち、これまでのやり方を踏襲するのではなく、柔軟なやり方をすることも大切である。 ●幼児の興味関心を引き付ける環境の工夫について、学び合いの場を設けていきたい。	

重点２	自己表現をする力を育てる	2
成果と課題	〇幼児がいろいろな方法で自分の思いを表現したり、周りの人にかかわっていく姿が見られた。時には言葉で伝えることが苦手な幼児も、友だちや教師から声をかけられることで安心する姿もあり、「自己表現」ということを教師自身がどのようにとらえるか、ということの重要性に気づくことができた。 ●幼児が言葉で自分を表現することに戸惑いを感じているとき、その姿に寄り添い、予想しながらかかわることで幼児が何に戸惑っているのか、或いは、言葉が見つからないのか、幼児の姿をどうとらえるかについての実践検討を深め保育に活かしていきたい。	

重点３	家庭・地域との連携を図る。	3
成果と課題	〇地域に散歩に出かけたり、地域の方が来園された時に自分から挨拶をする幼児がいる。これは、毎年多くの地域の方とのかかわりがある中で、年少児の時に年長児が挨拶をする姿を見て学び、年長になったときに幼児がすすんで挨拶をするサイクルができつつあるととらえている。 〇教師一人一人が地域のことを知ろうとする気持ち、意欲がもてるようにすることが、幼児が地域に対して関心を持ったり、地域の方々と交流を持ったりすることに興味を持ち積極的な姿になることにつながる。	

２　改善方針

・幼稚園が大切にしている「幼児が自ら選んでする活動」については、毎日の実践を大切にする中で、園内研修で更に具体的に話し合うことが必要である。保育の質を上げていくためにも、子どもの姿を出し合い、実践したことや、それによってどんな変容を見せたか、或いは、迷ったこと、うまくいかなかったこと、等々、それぞれの思いを出し合うことで、教師は自分のかかわりを振り返ることができる。振り返ることができると、教師同士いいところを学び合ったり、反省したことを修正したりすることが出来るのではないか、そうすることが幼児への柔軟なかかわりにつながっていくと考える。
・一人一人幼児へのかかわりの中で、職員間の共通理解を更に深め、関係機関との連携を進めて行く。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 高花平幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	健康な心と体の育成	4
成果と課題	基本的な生活習慣の確立 〇手洗いやうがい、身のまわりの始末など、一人一人の幼児に見合った援助をすすめてきたことで、次第に自分で出来るようになり自信がついた。家庭でも生活習慣が身につくよう、保護者への声かけや生活習慣チェックシートの取り組みを進めたことで、早起きして朝の登園時間が早くなる等の姿がみられ、幼児や保護者の意識も高まった。 幼児の発達に合った運動遊び 〇鬼遊びやサッカーなど、戸外で思い切り体を動かすことを楽しんだり、アスレチックコースや手作りの遊具などの環境を工夫したことで、いろいろな体の動かし方を経験することができた。体を動かす遊びは好きでも苦手に感じていることには取り組もうとしない姿もあるので、今後も幼児がやってみたくなるような環境を工夫していきたい。 園外保育の充実 〇地域の公園巡りやスーパーへの買い物など、地域の特色を生かした園外保育に取り組んだことで地域への親しみが持てた。また徒歩通園を奨励してきたことで、親子で歩く幼児が多かった。保護者アンケートからは歩くことで脚力がついたと感じるとの評価が得られた。今後も安全面を考慮しつつ、活発な園外保育の取り組みを進めていきたい。 栽培活動やクッキングを通した食育 〇食べることの楽しさを感じられるよう、栽培活動や収穫体験、調理活動などに取り組んだことで、食べることへの意欲につながった。保護者アンケートからは、苦手な食べ物も食べようとする意欲につながったとの評価が得られた。食への興味関心が高まるよう、取り組みを続けていきたい。	

重点２	コミュニケーション力の育成	3
成果と課題	あいさつの推進 〇あいさつを自分から進んでする幼児がいる一方、教師から声をかけてもらうことで安心してあいさつをする幼児もいる。今後も「おはよう」「ありがとう」など、様々な生活場面で、あいさつの心地良さを実感できるような機会を増やしていきたい。 生活や遊びの中での異年齢のかかわり 〇混合保育を行う中で、４歳児が５歳児に憧れの気持ちを持ったり、５歳児は４歳児を思いやれるようになったりした。教師が、幼児の思いをしっかりと受け止めてきたことで、安心して自分の思いを表現できるようになり、次第に言葉で気持ちを伝えあえるようになった。しかし、相手の話を聴く力についてはやや弱さがみられるので、今後は友だちの思いを聴きながら遊べるよう、指導・援助していきたい。 いろいろな人との交流を深める 〇地域の方や、近隣の保幼小中との出会いや交流の機会を積極的に取り入れたことで、いろいろな人がいることを知ったり、親しみの気持ちを持ったりすることができた。大勢の人と遊んだり、会話をしたりするなどの普段と違う場面を経験する良い機会になるので、今後も引き続き交流をすすめていきたい。	

重点３	学びにつながる意欲の育成	4
成果と課題	意欲をもって、粘り強く取り組む力の育成 〇一人一人の幼児の興味・関心に応じたかかわりをしてきたことで、夢中になって遊べるようになった。また、幼児同士が互いに刺激し合う姿を大切にしてきたことで、更に遊びの意欲が高まった。 友だちとの協同、高め合う学びの体験 〇遊びの中で、幼児同士が思いを伝え合ったり、友だちの意見を言ったり、アイデアを出したりする姿を大切にしてきた。５歳児が中心となり、次第に４・５歳が一緒に誘い合いながら遊びを進めていくことができた。これからも、遊びや活動の時期に考慮した環境を設定し、４・５歳それぞれの発達に見合った遊びを展開していく工夫が必要である。 自然に触れ合う感動体験 〇草花や虫、雨や氷などの身近な自然に、まずは教師が親しみ、心を動かし、その思いを幼児に伝え、感じたことを共有するようにしてきた。小動物の世話にも幼児が積極的に取り組み、命を感じ、大切にする気持ちも育ってきた。園内での体験が中心であったので、今後は地域の自然にも目を向けられるようにしていきたい。	

重点４	子育て支援の充実	4
成果と課題	子育てについて保護者の思いを受け止め、園からも発信する 〇保護者と降園時に話す機会を大切にしながら、共に幼児の成長を喜び合ったり、考え合ったりすることができた。おたよりや保育内容の掲示など、園での取り組みを伝える工夫もした。今後も保護者と園が相互に理解し合い、共に幼児の成長を語り合える関係を大切にしていきたい。 〇幼児の誕生月に、家族と一緒に園で過ごす日（ファミリーティーチャー）を設けてきた。保育内容や園での幼児の姿を実際にみて知る機会になった。また、保護者同士がつながる機会にもなった。保護者もこの日を楽しみにしてもらっているので、今後も取り組みを続けていきたい。 地域、保護者との連携を深める 〇地域や社会福祉協議会との共催行事を活発に進めることができた。地域の方も幼児も、互いに親しみの気持ちがもて、幼児が地域に愛着を持つことにつながった。 園開放での子育て支援の充実 〇園児と遊び会の子ども達が一緒に遊ぶ機会をつくってきたことで、交流日を楽しみに待つようになり、異年齢の交流につながった。ＨＰや地域へのおたよりの回覧等で園の様子を知ってもらい、安心して園に来てもらうことができた。	

２　改善方針

健康な心と体の育成

　今後も家庭との連携を大切に、基本的な生活習慣や、歩く力が身につくよう取り組みを進めていく。また、近隣の施設や地域の豊かな環境を生かし、安全な園外保育の充実を図っていく。

コミュニケーション力の育成

　幼児が「おはよう」「ありがとう」などのあいさつの心地よさを実感し、自らあいさつしようと思ったり、相手の話を聴こうと思ったりできるよう、日々の保育の中で気持ちを伝え合う機会を大切にしていきたい。

学びにつながる意欲の育成

　混合保育の良さを生かしつつ、４歳児５歳児それぞれの年齢に見合った発達の保障について、職員が連携を取り、遊びを大切にした取り組みを進めていきたい。

子育て支援の充実

　今後も園での取り組みや、遊ぶ会の様子などを具体的に保護者や地域に発信し、地域や保護者と共に、子どもの成長について話し合い、取り組みを進めていけるようにしていきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 大矢知幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	コミュニケーション力のある子どもを育てる	3
成果と課題	（成果） ・教師が幼児一人一人と目を合わせ、積極的に挨拶をしていくようにしたことで、自分から挨拶をする幼児の姿が増えた。また、友だちや来園者や地域の方にすすんで挨拶をしようとする姿も見られるようになった。 ・場面に合わせた言葉づかいや相手に伝わりやすい言い方を幼児たちが意識できるように指導していったことで、生活の中で自然に使えるようになってきた。 ・自分の思いと相手の思いの違いに気づくことができるように、気持ちを代弁して伝えたり、どのように気持ちを伝えると良いのかを知らせたりすることで、相手の気持ちにも気づくことができるようになってきた。また、自分の気持ちを言葉で表現しようとしたり、友だちがどんな気持ちだったのかを考えようとしたりする姿も見られるようになった。 ・生活や遊びの中で、友だちと話し合って物事を決めたり、遊び方を考え合ったりする機会を作っていくようにした。そうすることで、友だちの話にも耳を傾けようとしたり、友だちの思いや考えを受けとめながら遊ぼうとしたりする姿が少しずつ見られるようになってきた。 （課題） ・積極的に挨拶をしようとする幼児の姿もあったが、担任以外の職員や慣れていない人にはなかなか挨拶をしようとしない幼児の姿もあった。 ・自分の思いを言葉で表現することが苦手な幼児の姿や、自分の思いとは違う考えを受け入れづらい幼児の姿も見られる。言葉で気持ちを表現する機会を意識的に作ったり、友だちに気持ちが通じることの嬉しさを感じられる体験を積み重ねていったりする等、今後も援助の仕方やかかわり方を探っていきたい。	

重点２	体力のある子どもを育てる	3
成果と課題	（成果） ・園内の限られた空間を利用し、ホールに巧技台を組んだり、教師も幼児と共に積極的に体を動かして遊んだりする等、環境を工夫していったことで、様々な運動遊びを楽しむ幼児の姿が見られ、遊びの種類も増えた。 ・教師も積極的に体を動かしながら運動遊びを楽しむことで、幼児が友だちと体を動かして遊ぶ楽しさを十分に感じ、友だち同士で遊びをすすめていこうとする姿も多くなった。 ・雲梯・鉄棒・跳び箱等に挑戦する活動をクラス活動にも取り入れたことで、体を動かして遊ぶことへの興味・関心が持ちにくい幼児も、挑戦してみようとする姿が見られるようになった。また、苦手なことにも根気強く取り組もうとする幼児の姿が増えた。 ・マラソン等の活動は、寒さにも負けず戸外で体を動かそうとする幼児の姿が増え、体力づくりにもつながった。 （課題） ・園外保育を計画的にカリキュラムに取り入れてきたが、安全面等から回数が少なくなってしまった。さらに見直し・検討を行っていきたい。また、継続的・段階的に体力づくりをすすめていきたい。	

重点３	感性豊かな子どもを育てる	4
成果と課題	（成果） ・植物や小動物の世話を通して、生き物への興味・関心が広がった。また、自然物を遊びに取り入れて遊ぶ中で、自然の変化等にも気づくことができるようになった。 ・様々な自然・素材・物に触れて遊ぶ中で、幼児が感じたり思ったりしたことをしっかりと受けとめていくことを大切にしてきた。そうすることで、幼児たちが感じたことや思ったことをのびのびと表現するようになり、感性が豊かになったと感じた。 ・クラスだより等で、幼児たちが楽しんでいる遊び等について紹介し、様々な活動への意欲が学習や成長につながっていくことを伝えることができた。また、保護者からも家庭での幼児の話を聞く機会も増えた。 ・自分の得意なことや好きなことに十分に取り組むことができる場所や時間を確保していくことで、友だち関係が広まり、つながりも深まった。また、今まで気付かなかった友だちの一面を知り合うことにもつながった。 （課題） ・子どもたちが夢中になって遊び込めるような援助を工夫し、子どもたちの「大好き」を見つけていくということが、「感性」を具体化することにつながったように感じた。次年度も、引き続き取り組んでいくようにする。	

２　改善方針

・挨拶については、日々のかかわりの中やクラスだより等を通して、挨拶の大切さを保護者にも啓発していき、挨拶が生活の中で習慣づいていくようにする。 ・園外保育を計画的に取り入れていき、思い切り走ったり体を動かしたりして遊ぶことができるように工夫していきたい。また、幼児の興味・関心に応じた活動内容を考え、教育課程に位置づけていく。 ・幼児たちにどのような力をつけていきたいのかを職員で話し合い、環境設定や援助方法を工夫し、保育内容を考えていくようにする。 ・幼児たちの遊びがより深まっていくために、一日の流れや行事等を見直していく必要がある。教育要領の理解を深め、カリキュラム編成の改善を行っていきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 八郷中央幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	遊びや生活に主体的にかかわり、集中して取り組む力を育てる	4
成果と課題	≪成果≫ ・意欲的に遊び出せるよう遊びに必要な道具など用意し環境を整え工夫すること、また見通しを持って発達に合った遊びをすることで４歳児も５歳児も一緒に１つの遊びを楽しむことができた。 ・遊びや生活の中で楽しかった思いやできたという思いを一人一人丁寧に受け止めたことで、自信がつき、遊びへの意欲につながった。 ・幼児同士のかかわりが増えるように活動の場を狭めたりクラス全体で遊ぶ時間を持ったりして、みんなが同じイメージやルールの中で遊べるようにしたことで集団で遊ぶことが増えた。次第に、幼児の主体的に遊びが広がり、その遊びを周りの幼児とも共有して楽しめるようになった。 ・遊びの中で、幼児が思ったり感じたりしていることを引き出し、それぞれの思いがぶつかる場面を作り、幼児自身が考えたり、試したりできるようにすることで、幼児同士でも様々な工夫をして遊ぶ楽しさが味わえるようになった。	

重点２	人とかかわる力を養う	3
成果と課題	≪成果≫ ・遊びを通して友だちとかかわる中で、相手との思いの違いなどを経験したり、相手の気持ちに気付けるように、気持ちがぶつかり合う場面など丁寧にかかわった。 ・教師がじっくり話を聞き受け止めることで、安心して自分の思いを出せるようになった。教師に思いを出せるようになると友だちにも自分の思いを伝えようと積極的に会話をするようになった。また、どう言えば相手に伝わるかを一緒に考える中で、色々な思いを言葉で表せるようになってきている。さらに５歳児はどうしたらみんなが心地良くまた楽しく遊べるかを幼児なりに話し合おうとするようになってきた。 ・４歳児、５歳児が一緒に過ごす混合園であり、学年は違うが繋がりが深い。互いをよく知っている分、相手をより思いやる気持ちが持てた。また、一緒にいるのが多いことで、様々な場面で互いの良さに気づいたり知ったりすることで少しずつ自己肯定感を高まっている。 ≪課題≫ ・園外保育は見通しをもって計画をたて、近隣園との交流や地域に出かけるなどの活動をさらに充実させていきたい。	

重点３	健康な心と体づくりを推進する	3
成果と課題	≪成果≫ ・教師が積極的に戸外で体を動かす遊びを一緒に楽しんできたことで、戸外遊びが好きな幼児が増えた。 ・バスケットゴールを設置したりサッカー教室を経験したりする環境を整えることで幼児が楽しんで体を動かして遊べるようにした。特にボールを使って遊ぶことで、投げる、蹴るなど色々な動きを経験できた。幼児が自ら遊びを選んでする時間にもドッジボールなど繰り返し楽しんだことで、しなやかな身体になってきた。 ・年間を通して地域の敬老会との交流、介護施設訪問を計画した。交流することのねらいを教師が意識し、交流を積み重ねて相手の気持ちを考えたり幼児の心も温かくなるような場面を持つことができた。 ≪課題≫ ・挨拶の気持ち良さを感じられるような声かけや周りの大人が手本となって挨拶することの大切さを今後も伝えていく。	

２　改善方針

≪重点２≫
・地域の様々な年代の人とのつながりを通して、人に対する親しみの気持ちを持ち、人とかかわる力を育てられるよう、小学校や中学校ともねらいを明確にした交流を計画的に行っていく。
・近隣園との交流も計画し行い、大きな集団の中で遊びを楽しむ経験や刺激をうけられるようにしたい。
・自分たちの住む地域を知るために、園周辺の幼児が安全に活動できる場を保護者から教えてもらうなど、保護者も一緒になって園活動を楽しめるような取り組み行っていきたい。
・自然の豊かな環境を生かして、季節の移り変わりを感じられるように、同じ場所に定期的に訪れるなど園外保育を計画的に行っていきたい。

≪重点３≫
・保護者自身が生活リズムや挨拶の大切さについて、一緒に考えられるよう、たよりで子どもの様子を知らせたり保護者向けの講演会の充実を図っていく。
・歩く力をつけることを意識した園外保育の計画を立てる。また、徒歩通園を推奨して歩く力をつけるようにする。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　桜幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	遊びを通して学びの充実	3
成果と課題	・幼児がやってみたいと思う環境や、作って試してみたいと思える素材を準備したことで、幼児同士がかかわり合い発想豊かに遊ぶ姿があった。今後も、幼児の発達や興味に応じた環境の設定を心がけていきたい。 ・友だちとのかかわりの中で体験できることや、自然物を使った遊びなどを多く取り入れる機会を作ってきた。今後も、見て触れる実体験で気づき、学びの充実につなげていきたい。 ・自分の考えや意見を表現できる機会を多く持ち、相手に思いを伝える力が育つようにした。又、相手の話を聞き、友だちの思いに気付けるように働きかけをした。時には自分の思いが溢れ、気持ちを伝えることに戸惑う姿もあった。教師が仲立ちとなり少人数での活動で意思疎通しながら、遊びを進める経験が持てるようにした。	

重点２	健康な身体づくり	3
成果と課題	・戸外遊びを好む幼児が多く、全身を使ったかけっこ、ボール遊び、遊具遊び、竹馬・竹ぽっくり等日常的に身体を動かして友だちと夢中になって遊ぶ姿があった。挑戦したい気持ちはあるが、戸惑う幼児には励ましたり、誘い掛けたり支援したりして活動する機会が持てるようにした。引き続き、姿勢保持や体幹づくりをすすめていきたい。 ・給食や収穫祭等の機会を通して、食や身体づくりへの関心を高めることができた。『早寝・早起き・朝ごはん』『３色そろえて元気な子』を取り入れることで幼児の食への関心が深まり、偏食の改善も少し見られた。今後も基本的生活習慣の確立や登園時からの身支度などをさらにスムーズに行えるように工夫していきたい。 ・夏や冬は熱中症やインフルエンザなど体調管理の面で園外での活動の難しさもあるが、幼児の実態に合わせて園外保育を計画し実施することができた。	

重点３	豊かな人間性とコミュニケーションの育成	4
成果と課題	・混合クラス運営の中で、４歳児と５歳児が、自分と同じ思いの友だちやそれぞれの体力に合った活動を見つけ、異年齢で遊ぶ姿があり、安心感へとつながっていた。自然に思いやりや憧れの気持ちを持ってかかわる姿に成長を感じた。 ・教師が、幼児のストレートな思いや、感情を受け入れることで気持ちが安定し、素直な自己表現が出来るようになった。 ・けんかをしたり葛藤する等様々な場面を体験し、友だちの思いに気付く中で、相手と自分の違いを受け入れ、共感できるようになってきた。一人一人の個性や違いを知り、受け入れて過ごす姿が見られるようになった。今後も、人とつながろうとする仲間づくりを支援していきたい。	

重点４	地域のつながりと子育て支援の充実	3
成果と課題	・保育園・小学校・中学校・老人会などふれあう機会を通して、幼児は、地域の中で温かく見守られていることを感じられた。今後も、地域で育つ喜びを保護者とともに感じていきたい。 ・中学校区の学びの一体化研修などの場で各学校の児童・乳幼児の姿や取り組みを聞くことができた。地域で同じ目標を持ちながら、幼児の１０年先の姿を思い描きながら保育していくヒントをもらうことができた。 ・幼児の姿を通して、保護者とともに子育てや偏食などを、一緒に考えたり、相談に乗ったりすることで子育て支援の充実を図ってきた。	

重点５	教師の資質向上	3
成果と課題	・日々、保育日誌や実践記録を通して、幼児の姿や思いを振り返り、育てたい力や次へのステップになるように取り組んできた。さらに、職員同士で幼児の姿を十分に共有し、教育課程を組み立て、一人一人のより良い成長につながる園生活へと実践してきた。 ・日案をもとにその日の幼児の活動を確認したり、連絡を記入したりしたことで、連携を密にできた。 ・園内研修で話し合ったり、研修還流報告をしたりして教師自身の資質向上を図ることができた。今後も、幼児の発達に応じた保育内容や支援の在り方について話し合いを行い、よりよい教育実践ができるように研鑽を積む必要がある。	

２　改善方針

・４月当初は４歳児が５歳児と一緒に過ごすことで不安にならず、スムーズに園生活に慣れることが出来た。しかし、集団が大きくなるため、順番を待つなどの場面で4歳児にとっては負担になることもあったのではないか。また、教師同士の連携をしっかりと取り、４・５歳児のそれぞれの発達や興味に応じた活動や経験ができるような保育室の設定や教育計画などの工夫が必要である。

・一人一人の興味や関心は様々であり、これまで以上に多様性を重視した指導が必要であると痛感した。一人一人の課題に合わせた支援や指導をしつつ、集団として学年ごとのねらいや教育目標を達成するには困難さもあるのではないか。特に対外的な行事などでは今後もさらに運営方法の見直しや工夫をその都度考えていく必要がある。

・保護者とともに幼児の姿や思いを語り合い、成長を喜び合えるようにしていきたい。

・教師同士が、研修還流やそれぞれの持ち味を伝え合える学びの場を工夫し、資質向上をさらに目指していきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 常磐中央幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	ほっとする 〇安心して過ごせる環境・クラスづくり 〇「大好き」の気持ちを育てる 〇身近な人と気持ちが通じ合う経験をする	4
成果と課題	・一人一人に寄り添い、思いを受け止めたりそれぞれの良いところや成長した姿をしっかりと認めたりして、幼児との信頼関係を深めていくことができた。教師と幼児の温かい関係が、幼児同士の温かい関係へとつながっていった。 ・登園時、幼児の姿に合わせて丁寧にかかわってきた。門から一人で登園してくる姿を見て、幼稚園が安心して過ごせる場になってきていることを感じた。 ・保護者アンケートでは、殆どの幼児が幼稚園が好きで登園を喜んでいるという評価だった。教師や友だちなど身近な人と気持ちが通じ合う経験を通して友だちが大好きになり、友だちと一緒ならやってみようという気持ちが育っている。 ・今後も保護者と連携して、遊びの時間を十分に保障し、友だちや教師と安心して楽しく過ごせるように丁寧にかかわり、一人一人が大切な存在であることが感じられるようにしていく。	

重点２	わくわくする 〇発見した喜びを感じる 〇夢中になって遊ぶ経験をする 〇自分なりに工夫して遊んでみようとする	3
成果と課題	・遊びの中で、考えたり、新しい発見をしたりと、様々な経験をする中で夢中になって遊ぶ姿が見られた。友だちと考えて工夫することを繰り返し楽しむ中で、思考力や協同性も育まれた。 ・幼児が発見したことや工夫したことを教師や友だちに伝える姿が見られ、一緒にやりたいという思いが見られた。 ・環境を工夫してわくわくする経験を繰り返す中で、幼児が生き生きと自分を出して遊ぶことができた。 ・友だちと一緒ということが安心や刺激につながり、楽しみながら成長し合うことができた。 ・今後も、幼児が夢中になれるような遊びの環境を工夫したり、それぞれの好きな遊びをもっと膨らませて広げたりできるような教材研究をしていく。	

重点３	やってみる 〇基本的な生活習慣を身につけ自分でやってみようとする 〇初めてのこと、苦手なことにも挑戦する 〇体を動かして遊ぶことが好きになる	4
成果と課題	・保護者の協力と理解のもと、自分のことを自分でしようとする気持ちが育つように一人一人丁寧にかかわり、認めてきた。保護者に作ってもらった竹馬や竹ぽっくりにこつこつ挑戦し、運動会で披露した経験が大きな自信となった。 ・苦手なことも、教師や友だちと一緒に諦めずに根気よく取り組むことができた。達成感を味わい、自信にもつながって継続的な取り組みの大切さを感じた。 ・まずは自分でやってみようという気持ちを大切にしてきた。生活の中でできなかったことも、丁寧に見てかかわっていくことで、自分でできることが増えたり、挑戦したりする姿が見られるようになった。 ・クラスで鬼遊びやドッジボールなどルールのある遊びを経験し、楽しさを感じて友だちと誘い合って遊び、友だちとつながる機会にもなった。 ・計画的、継続的に体を使って遊ぶ環境を設定したことで、体を使って遊ぶことが好きになり、挑戦する気持ちや意欲も育ってきた。 ・体力をつける、交通ルールを知る、季節の変化を感じるなど、安全面に配慮して園外を歩く機会を計画的に実施していきたい。 ・さまざまな体の使い方ができるような遊びを工夫し、しなやかな体づくりと、体力向上につなげていきたい。	

重点４	つながる 〇友だちと関わり合い、つながりあって遊ぶ 〇「きく力」「話す力」を育てる 〇家庭・地域と子育てについて共に考えていく 〇保幼小中で連携して子どもを見ていく	3
成果と課題	・教師が一人一人の幼児と向き合い、気持ちを受け止めたり認めたりしていくことで、自分の思いを表現したり伝えようとしたりする姿になってきた。また、友だちやクラスみんなで互いを認め合おうとする姿につながった。 ・幼児の話にしっかりと耳を傾け、聞いてもらえる喜びや安心感などから自分の思いを話そうとしたり、友だちの思いも聞こうとする姿が見られるようになった。 ・年間を通して地域や保小中との交流を計画的に実施することができた。小学校で交流することで、学校生活に対して不安だった気持ちも期待に変わっていく姿が見られた。 ・４歳児と５歳児でペアを組んで交流を繰り返す中で、温かい気持ちが育った。さらにつながりが深められるように、日々の遊びや生活の中でかかわれる場面がないか具体的に考えていきたい。 ・自分のことに夢中になり、まだまだ友だちや教師の言葉に耳を傾けられない姿もあるので「きく力」がさらに育つようにかかわりを考えていきたい。 ・保護者の思いや考えを聞くことを意識してきたが、今後も園での幼児の姿を伝え、家庭にも寄り添いながら保護者と一緒に子育てを考えていきたい。	

２　改善方針

・保護者との会話や家庭訪問などの機会を大切にし、幼児一人一人が安心して登園し、楽しんで園生活が送れるようにしていく。
・自分から挨拶をしたり、気持ちを伝えたりできるように取り組みを続けていくとともに、保護者にも発信していく。
・園内研修を計画的に行い、それぞれの職員の思いや保育のねらいを共有していく。
・幼稚園の取り組みや遊びの中での学びの見える化に努め、保護者の理解、保育内容の質の向上へとつなげる。
・ビジョンを教師がとらえやすく、保護者にわかりやすいものにと変更したが、４つの重点が重なり合う部分も多いと感じた。さらなる工夫をしていきたい。
・幼児が意欲的に楽しく過ごせるように、教師間で連携を取って環境の工夫に努めていく。また、保育を振り返る時間を確保し、一人一人の発達や手立てについて検討、工夫していく必要がある。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 塩浜こども　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	遊びに意欲的に取り組む中で、気づいたり考えたりしながら、「生きる力」「共に生きる力」の基礎の育成をはかる	4
成果と課題	○成果 ・指導主事訪問や大学連携を通してOJT研修を行うことで保育者の「子どもを見る目」や保育環境整備などの保育の中で大切にしていくことを学びあうことができた。その中で、自分の保育を基本から客観的に見直すことができた。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」を園の子どもたちの姿を写真や文章を添えて掲示することで、保護者にもわかりやすくすることができた。 ・他の園の保育者や中学校区の先生方に公開保育をすることで、多くの示唆を得る機会を複数回持てた。 ○課題 ・園内で園ビジョンの中の「主体性」や「養護の部分」、「3つの目標」「１０の姿」、「自ら選んでする活動の意義」を全員で学びあい研修する時間が持ちにくい。実践を通して学ぶ工夫を考えていきたい。	

重点２	生活リズムの向上の取り組みとして、食育と基本的生活習慣の確立を重点的に取り組む	4
成果と課題	○成果 ・「生活リズム向上早寝・早起き・朝ごはん」推進の保護者向けの講演会を開催し、園だより等でも啓発を行った。四日市市の生活リズムアンケートの集約結果を保護者に周知したことで、2回目の結果は概ね数値が向上していた。 ・毎朝の体操やふれあい遊び、マラソンなどの活動を１年間継続して取り組むことで、登園時間が早まったり、戸外で遊ぶ経験が増えた。異年齢との日常的な交流が生まれ体力や持久力が高まった。 ・5歳児がサツマイモや夏野菜を栽培したことで、保護者も巻き込んで成長や収穫に興味関心が持てた。収穫物を給食に利用してもらうことで苦手なものも食べるようになった。 ・給食の食材ボードを5歳児が毎日当番活動として担当したことで、食材に対する興味や品目の名前、種類等を知る良い経験になった。 ○課題 ・今年は春から気温が高く、野菜の成長時期に戸外での活動が高温のため制限され、例年よりも栽培活動以外にも園外保育や戸外活動ができなかった。こうした事態での遊びや活動の設定をより工夫する必要がある。 ・今年度は、異年齢交流を意図的に多く持ったことで、違うクラスの活動にも興味を持つ姿が多かった。しかし、生活リズムの中での異年齢交流の方向性を系統立ててなかったため、活動がそれぞれのクラスの活動に反映できなかった。 ・個々の子どもの生活経験を把握して、それぞれの子どもの状況に合わせた基本的生活習慣の定着を個々のペースに合わせて行う必要がある。次年度は個々の発達に合わせた指導をしていきたい。	

重点３	保護者・地域に幼保連携型認定こども園についての理解を深めてもらうための情報発信を具体的におこなう	4
成果と課題	○成果 ・HPで、まとまった活動や大きな園行事だけではなく、自ら選んでする活動を紹介し、その活動がどういった意味があるのか具体的に解説したり、同じ活動を1歳児から5歳児の姿を載せ、それぞれの発達の道筋を保護者や地域の方々、未就園の保護者にも理解してもらいやすいような内容にするよう心掛けた。そのことで「わかりやすい」「発達の違いがよくわかった。」という反響が寄せられた。 ・園の教育ビジョンを入園進級式を皮切りに様々な園行事の際に口頭で説明することを大切にしてきた。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」を廊下に写真や説明文やエピソードを掲示することで保護者や来園者にアピールすることができた。 ・年間５回のアンケートを取ることで集約結果から見えてきたことを園だよりや報告書として配布することで、保護者の意識を少しずつ変えていくことができた。今年度は保護者が園に来ているときに、アンケートに回答してもらうことを行ったことで回収率が大幅にアップすることができた。 ○課題 ・一体化園として十数年が経過したことで、「一体化園＝保育園と幼稚園の共存」という意識が保護者にも地域にも根強くある。こども園の特性を分かってもらうための取り組みを模索しているが、「こども園の強みと弱み」を職員間で明確化することが必要である。 ・職員が転勤等で入れ替わることが例年多いので、毎年、こども園の定義等を全員で確認したり学習したりすることが必要である。	

２　改善方針

○入園進級式、保育参加、懇談会、園行事、HP等の場を活用し、「こども園」や「園のビジョン」の説明やアピールをして保護者に園の保育教育の理解を深めてもらう。

○幼保連携型認定こども園の理念を全職員で確認し、教育ビジョンや「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」を共通理解する研修や会議を持ち、保護者や地域に説明できる力をつける。

○全職員が各クラスの子ども一人一人の発達や特性を理解し、それぞれの発達に即して、教材研究や環境設定を工夫するスキルアップをさらに図っていく。

○園医、園歯科医、薬剤師、給食調理員と連携をとり、子どもの健やかな育ちを保証するための情報発信を子どもたちや保護者におこなう。

○園内外で参加した各種研修の園内への有効な還流報告の持ち方を工夫し考える。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 笹川中央幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	生活習慣を身につけ、健康な体をつくる	3
成果と課題	〈成果〉 ・月ごとに生活習慣、体づくりの目標を幼児の実態に合わせて決めて、意識的に取り組んできたことで、運動遊びや戸外遊びを楽しむ幼児が増えた。保護者評価では、A評価が９５％で「戸外で遊ぶことが好きになった」「体力がついた」と高く評価している。 ・食事の面では、栽培活動を通して野菜に関心を持ったり、三色の食育表を掲示し、どんな食材が入っているのかを知らせてきたりしたことで、食への関心を広げることはできた。 ・日々の生活以外でも、園外での活動や地域の方と触れ合う機会をとらえ、いろいろな人とのかかわりの中で「挨拶をすること」を教師自らがすすんで行い、幼児も教師を見て同じように挨拶をすることが増えた。 〈課題〉 ・食事の面では、食への関心は深まってきたが、食文化の違いもあり、偏食もある中で、家庭と協力して健康な心と体づくりに必要であることを伝え、少しでも食べられるように推進の仕方も工夫していきたい。 ・「すすんで挨拶をするようになりましたか」「手洗い、うがいをすすんでしますか」の保護者の評価では、A評価は６５％という結果であり、幼児が自主的に行うことが難しいと明確になった。今後も幼児自らが必要性を感じ、すすんで挨拶、手洗い、うがいを行えるように指導方法を工夫し、継続的に保護者に啓発・推進していきたい。	

重点２	互いを認め合い、温かい人間関係を育てる	4
成果と課題	〈成果〉 ・一人一人の個性があふれる集団の中で、教師も幼児も多様性に気づき、ありのままの姿を受け止めてきたことで、幼児同士も言葉が違っても感じ方が違っても友だちの良さに気づけるようになってきた。自分をのびのびと表現できる幼児が多くなった。 ・職員数の多さを強みにして、幼児理解の面でより多面的に見ることができ、様々な指導方法を考え合ってきた。幼児に対して柔軟な対応ができ、良さを伸ばしたり、課題解決に向けてよりよいかかわりを探り、とりくむことができた。 ・週一回、異年齢で一緒に食事をし、遊ぶ時間を設定してきた。そのことがきっかけとなり、日本語で話す環境が増え、いい刺激になり、語彙力が高まってきた。さらに、年長児へのあこがれも高まり、異年齢での自然なかかわりが多くなった。 〈課題〉 ・日々の生活の中で、幼児のいろいろな気づきを知らせ合い、教師も一緒に考え合ってきたことで、幼児自身が一人一人の違いに気づいてきている。今後もありのままの自分を受けいれられるような環境つくりを目指していきたい。 ・４歳児、５歳児をひとつの大きな集団として異年齢の活動の充実を意識してとりくんでいくようにする。	

重点３	豊かな生活体験をし、聞く・話す・伝える力をつける	3
成果と課題	〈成果〉 ・チョウの幼虫などのいろいろな生き物の世話、季節に応じた栽培活動など、身近な自然に触れあう体験を大切にしてきた。成長していく変化などに気づき、感じたことを一緒に共感し、受け止めてきたことで、幼児自身が自然の環境に積極的にかかわり、遊びに取り入れる楽しさに気づくようになった。保護者のアンケートでは、「遊びの種類や生活体験が増えましたか」「自然の変化に気づくようになりましたか」の項目では、Ａ，Ｂ合わせて１００％と評価が高かった。 ・幼児が楽しんでいること、興味のあることを見極め、教材研究をし、遊びに必要な物を準備するなど、環境構成を工夫してきたことで、好きな遊びが見つかり、毎日遊びを楽しみに登園する姿が見られるようになった。保護者の評価も「園が好きで喜んで登園していますか」「園の生活、遊びが楽しいといってますか」では、Ａ評価が９６％であった。 ・絵本の読み聞かせの時間を大切にしてきたことで、言葉をまねして言うなど話す力がついてきた。また、いろいろな感情を豊かに表現できるようになってきたとともに、みんなに伝えたいと思う気持ちが育ってきた。 〈課題〉 ・自分の思いを伝えたい気持ちが強く、教師や友だちの話を落ち着いて聞くことが難しい姿も見られた。人の話を聞くことの大切さも引き続き伝えていきたい。また、落ち着いて話が聞ける環境の工夫や手だても探っていきたい。 ・日本語で話す力をつけていくために、教師も一人一人に合わせた言葉かけが必要であり、日本語指導も充実していきたい。	

重点４	支え合い協力して取り組む保護者・地域・教職員	4
成果と課題	〈成果〉 ・子どもの様子や園の取り組み、保育の中で大切にしていることなどを、毎日ボードに記入したり、写真の掲示をしたりしてきた。写真があることで、より幼児の具体的な様子がわかりやすいという保護者の意見が多かった。 ・幼児の発達に応じた支援や活動の場面での適切な指導について考え、職員間で共通理解しあうことができた。 ・今年度も「園の教育内容に満足している」A評価が95%と保護者からの評価が高かった。 ・保幼交流は、計画を立てて実施し、就学前に同じ経験を積むことができ、同じ年齢のたくさんの幼児と顔を知り合う機会になった。また、小学生や中学生との交流では、様々な人とかかわる経験となり、親しみをもってかかわっていく姿につながった。年長児の給食体験や学校探検などの機会は、小学校への見通しをもつことにもつながった。 〈課題〉 ・今後も広く公開保育を行い様々な観点から見てもらうことで幼児理解を深め、教師の力量を高めていくようにしていきたい。 ・さらに教育活動の充実を図り、幼児の発達に合った教材研究に努めたい。	

２　改善方針

・年々、幼児の体力や体幹の育ちが低下してきていることを感じる。幼児の体つくりを促すため、運動遊びを積極的に行えるよう一人一人の発達を分析し、遊び場が適切に設定できているか、日々の環境を見直し取り組みを進めたい。 ・引き続き、幼児の発達課題を明らかにし教職員全体で共通理解し指導援助できるようにしていきたい。そのための園内研修会の定例化や内容の工夫をしていく必要がある。 ・『人の話を聴くこと』『話すこと』について、教師の話し方や表現方法について幼児に適切であるか考えあう機会を作るため、公開保育を積極的に行い園内外からの様々な視点で研修できるようにする。 ・子育て支援の「遊び会」と園児との活動を深めていけるように内容の充実を図る。 ・保護者や地域の協力を得て園運営ができるよう、園の教育活動や園児の様子に合わせ、協力してもらえるよう家庭や地域に発信し働きかけていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 三重西幼稚園　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	健康な心と体づくり	4
成果と課題	○園内では教師にだけではなく、子ども同士でも互いに笑顔で挨拶をする姿がある。園外へ出た時や地域の方の来園時にも、自分から進んで挨拶ができるようにし、人とかかわる心地よさを伝えていく。 ○今年度も計画的に園外保育へ出かけ、歩く経験を重ねてきた。引き続き親子での徒歩通園を推奨し、歩くことの大切さを発信していく。また、公園がたくさんある地域なので今後もさらに活用していきたい。保護者アンケートの「体力がついたと思いますか」「歩くことで脚力がついたと思いますか」の項目で「そう思う・おおむねそう思う」の回答が100%であった。 ○クラス全体での遊びをきっかけにし、鬼ごっこや縄跳び、固定遊具など自ら選んでする活動でも活発に体を動かして遊ぶ幼児が多い。5歳児はルールを自分たちで相談し、決めて遊ぶ姿もある。また、竹馬や鉄棒などあきらめずに取り組み、喜びや達成感を味わった。保護者アンケートの「園の生活や遊びが楽しいと言っていますか」「戸外で遊びことが好きになりましたか」の項目では92.9%の方が「そう思う」と答えた。運動会や発表会ではそれぞれの発達に応じた活動にすることで、自信をもって取り組むようになっていった。 ○畑の場所を幼児の目が届きやすい位置にしたことで、野菜の生長に興味を持ち、進んで水やりをしたり、収穫する喜びや調理をしてもらう嬉しさを味わった。5歳児は、親子でカレー作りの経験をしたことで、家庭でも親子で調理する姿につながった。食育活動を通して給食の食材を知ったり、自分の体に必要な栄養があることに気づいたりすることで、食べ物に興味を持ち苦手な物も食べてみようという意欲につながった。	

重点２	互いを知ってつながるコミュニケーション能力の育成	3
成果と課題	○教師が十分に子ども達の思いを受け止め、場面に応じて必要な手立てやかかわりをしてきたことで、4月に比べ、嬉しい気持ちや悲しい気持ちなどを素直に表現し、それを周りに伝えられるようになってきた。また、日々生活する中で自分や友だちの良さだけではなく、苦手な物事があることを知ったり、自分や友だちの成長に気づいて言葉にして伝える姿も見られる。保護者アンケートの「相手にわかるように話したり表現したりするようになりましたか」の項目で「そう思う・おおむねそう思う」の回答が100%であった。職員も研修を進めていく中で一人一人の幼児の思いや友だちとのかかわりの中で発せられる言葉にも注目し、より良い援助のあり方について学んだ。 ○人数が少ない中でも自分達がしたい遊びをどのようにしたらできるかを工夫して考えたり、4歳児も楽しんで参加できるように5歳児がルールを工夫したりする姿があり、教師もその姿を見守ってきた。遊びの中で自然な異年齢でのかかわりが見られ、4歳児が5歳児に憧れの気持ちを抱く姿も多い。5歳児は優しい気持ちを持ちながら、園をリードしていく存在となっている。運動会や発表会の後には、5歳児の真似をして4歳児が再現をする姿もあった。 ○自分の気持ちを伝えることができる幼児は多い。今後はさらに友だちの気持ちを聴こうとする力をつけていきたい。「人の話を聴こうとしますか」の項目で「そう思う・おおむねそう思う」と回答した保護者は78.6%であり、今後引き続き力を入れて取り組んでいきたい。 ○また、各学年の育ちについても、今後も意識して保育をしていきたい。	

重点３	家庭や地域・小学校・中学校と連携した園づくり	4
成果と課題	〇園での様子を掲示物を利用して表示したり、保育後に話をしたりして伝えていった。保護者と子どもの育ちについて話し合う機会を多く持つことができた。 〇2学期後半に「おうちの人と遊ぼうデー」を実施し、保護者も園児らと一緒に遊ぶ機会を作った。自分の子どもだけではなく、クラスの子どもや子ども同士、教師のかかわりなどを具体的に見て、子ども達の成長を感じてもらうことができた。 〇地域との交流については、様々な団体の協力を得ながら年間を通して計画的に行うことができた。その中で様々な人に温かく受け止めてもらい、楽しさ・心地よさ・親しみを感じることができた。小学校とは隣接している良さを生かして、小学校のマラソン大会の応援をしたり、凧揚げをしに行ったり、1年生や5年生と交流することもできた。小学生を身近に感じ、就学への期待につながった。 〇遊び会の未就園児と一緒に、芋ほりや焼き芋などの行事に参加したり、交流の機会を計画的に持つようにした。幼稚園の様子を知ってもらうだけでなく、保護者同士、子ども同士のつながりができてきた。4歳児にとっても刺激になり、小さい子にやさしく声をかけたり、教えたりと来年度にもつながっていく経験となった。	

２　改善方針

①健康な心と体づくり
・今後も、保護者へ徒歩通園の良さを継続的に伝えながら、園としても計画的に園外へ出かけ、体づくりや地域の自然を生かした取り組みをしていく。また、地域の人に親しみをもって挨拶することについても意識していきたい。
・遊びの充実に向け環境づくりなど工夫していくと共に、何かに挑戦する機会や粘り強く取り組む機会を計画的に取り入れていきたい。
・親子クッキングや野菜の栽培など、充実した食育活動を来年度も継続して行いたい。

②互いを知ってつながるコミュニケーション能力の育成
・一人一人に応じて、聴く力を育てるために必要なかかわりを模索し、その中で友だちの話を聴く機会や時間ももっと意図的に作っていく。
・混合クラスとして、集団を確保して遊ぶ経験を大切にしつつ、各学年の発達もしっかり視野に入れて今後も保育をしていきたい。

③家庭や地域・小学校・中学校と連携した園づくり
・来年度は、園での様子を掲示物を使って表示するだけではなく、教育内容の視点についても発信し、保護者と共に子どもの成長について語り合っていきたい。
・地域との交流は今後も大切にしていきたい。
・地域を探検し、公園マップを作るなど、地域を知る活動にも力を入れていきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　楠北幼稚　　園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	１．基本的な生活習慣の自立（自立）	3
成果と課題	○教師から声を掛け、挨拶をする気持ちよさを伝えてきたことや、生活リズムのアンケートをきっかけに、声を掛けられると喜んでこたえようとする姿が見られるようになった。自信を持って、自ら進んですることができるよう、挨拶をすることの大切さや、心地よさをこれからも伝えたい。 （課題「自分から挨拶ができる」保護者評価〈そう思う〉44%〈おおむねそう思う〉44%） ○身の回りのことは、４歳児では教師と一緒にする中で、５歳児では友だちの姿が刺激となり、自分でできることを喜び、意欲的に生活しようとする姿が見られるようになった。子どもたちの『自分でやってみよう』という気持ちを見逃さず、その姿を認めていくことを続けたい。 （成果「自分でできることは自分でしようとする」保護者評価〈そう思う〉61%〈おおむねそう思う〉36%） ○幼稚園で、体や心を動かして遊びを十分に楽しむことや、園全体で朝の体操やマラソンに取り組むことで、早寝・早起きをしようとする姿が見られるようになってきた。より生活習慣を確立していけるよう、保護者との連携を密にし、継続して取り組んでいけるようにしたい。	

重点２	健康な体づくり（自立）	3
成果と課題	○十分に体を動かして遊ぶことでお腹が空き、食事を楽しみにする姿が見られるようになった。また、園内の畑や自分の植木鉢で野菜を育て、地域と連携して米を収穫したり、さつまいもを育てたりするなど、より栽培活動を楽しめるよう工夫した。４歳児では友だちと同じものを食べる経験を通して、５歳児では栽培活動や、クッキングなどに主体的に参加することで、食に対する興味が増し、食べてみようとする姿へつながった。（成果「きらいな食べ物でも食べようとする」保護者評価〈そう思う〉55%〈おおむねそう思う〉38%） ○４歳児では教師や友だちと一緒に園庭での遊びを楽しみ、５歳児では少し難しいことにも楽しんで挑戦できるよう活動を工夫した。また、全職員で子どもたちの姿を共通理解し、計画的に園庭に遊具を設定し、一人一人の意欲や達成度に合わせた支援ができるよう心掛けてきた。毎日の遊びや支援の積み重ねにより、体を動かして遊ぶ楽しさや心地よさを感じるとともに、自信がつき次への意欲へつながった。より体力や、しなやかな体の動きが身についていくよう、地域の保育園や小学校と連携を密にとり、子どもたちの実態や課題を共有し、活動を工夫していくことができるよう研修を積み重ねたい。 （成果「戸外で遊ぶことが好きになった」保護者評価〈そう思う〉75%） ○計画的に園外での活動を取り入れてきたことで、自分の住んでいる地域を知るとともに、歩く力がついてきた。地域と連携をとりながら、年齢に応じて、出かける場所を検討し、より力がついていくよう取り組みを続けたい。（成果「歩くことで脚力がついた」〈そう思う〉63%〈おおむねそう思う〉33%）	

重点３	元気に遊ぶ（学ぶ）力（意欲）	4
成果と課題	○子どもたちの気持ちを受け止め、認め、寄り添っていくことで、幼稚園の中で安心して生活することができるようになり、自分の力を発揮して遊ぼうとする姿へつながった。 （成果「幼稚園が好き」保護者評価〈そう思う〉80%） ○４歳児では教師や友だちと一緒に遊び、楽しさを共有することで、５歳児では毎日の遊びの中で、友だちや教師とその姿や思いを受け止め合い、認め合い、励まし合うことで、遊びの中で自信がつき、意欲的に遊び、友だちを求める姿が見られるようになった。（成果「幼稚園の生活や遊びが楽しい」保護者評価〈そう思う〉80%） ○好きな遊びが見つかり、毎日の遊びがつながり深まっていくよう、子どもたちの楽しんでいることや、興味のあることを見極め、教材研究をし、環境設定を工夫してきた。また、教師は、子どもたちの気づき、考え、思いを引き出せるようかかわり、子どもたちとともに考え課題を解決し、その楽しさや満足感、達成感を共に感じていけるよう努めた。友だちの姿も刺激となり、自ら遊びを見つけ、自信を持って遊びだそうとしたり、友だちとより遊びを工夫しようとしたり、自ら難しいことにも挑戦してみようとする姿が見られるようになった。（成果「遊びを試したり工夫したりする」〈そう思う〉80%） ○当番活動に取り組み、自分たちの力で生活することができる喜びや、達成感を味わう機会が持てるように工夫した。また毎日の遊びや、運動会や発表会などの行事を通して、友だちや沢山の大人に認められる経験を積み重ねてきたことで、自信がつき、意欲的に生活したり、遊ぼうとしたりする姿へつながった。（成果「遊びの種類や生活体験が増えた」保護者評価〈そう思う〉88%）	

重点４	豊かな心の育成・思いやりの心の育成	3
成果と課題	〇まずは、教師が子どもたちの伝えたい、聞いてほしい思いを受け止め、じっくり聴くように心がけてきたことや、思いが伝わる心地よさが感じられるようにしてきた。一人ひとりの思いを認めてきたことで、安心して自分の言葉で伝えようとする姿が見られるようになった。また、周りにいる友だちの存在を、根気よく伝えるようにしてきたことで、友だちの存在を感じ、『もっと友だちのことを知りたい』という思いを持てるようになってきた。 〇また教師が遊びの中で、自分の気持ちを友達に伝えたいという幼児の心の動きをとらえ、幼児の思いを言葉にして代弁し、丁寧にかかわってきたことで、幼児自ら友だちに気持ちを伝えようとするようになった。自分なりの表現になり、言葉が足りなかったり、遠慮していたりする姿もあるので、今後も伝えようとする姿を励まし、支えることを続けていきたい。 （課題「相手にわかるように話したり、表現したりする」保護者評価〈そう思う〉61%） 〇異年齢でのペアでの活動を取り入れたことで、４歳児は５歳児の優しさや温かさを感じ、憧れの気持ちを持ち、５歳児は自分より年齢の小さい友だちのことを考えて関わり方を工夫しようとする姿が見られた。３学期には、自ら選んでする活動の中でも、自然に交流が生まれ、４歳児は５歳児の姿から学び、５歳児は４歳児へ遊びを伝えようとする姿が見られるようになった	

重点５	地域・保護者との連携と協働	3
成果と課題	〇保護者との連携は、日々の活動の様子を、ホワイトボードやクラス便りに書き、写真を掲示し、積極的に保護者と会話をする中で、共に子どもの成長を喜んだり、子育ての悩みを考え合ったりする関係をつくってきた。引き続き保護者の子どものたちへの願いや思いをしっかりと受け止めながら、共に子育てについて考え合える関係づくりに努めていきたい。 〇地域と連携をとり、地域の中での実体験（祭り、稲刈り、サツマイモ栽培、焼き芋）を通して、子どもたちの活動は、より豊かになっていった。地域の人の温かさに触れ、子どもたちは親しみの気持ちや、感謝の気持ちをもつことができた。 〇同じ地域に住む保育園の友だちとの交流を重ねる中で、親しみを深め、交流の出会いに期待を持つ姿へと変わっていった。小学校や中学校との交流では、小学生や中学生の温かさや、優しさ、大きさや力強さを感じ憧れの気持ちを持つことができた。 〇保幼小中・地域と、常に情報を共有し、互いの思いや考えを伝え合いながら、保育のあり方を振り返り、取り組みを見直してきた。『地域全体で子どもたちを育てる』という意識を持ち、自園からも発信し、連携を密にとり合える関係づくりに努めていきたい。	

２　改善方針

重点①
〇教師から挨拶をすることを続けながら、絵本の教材や、生活リズムのアンケートなども有効に活用し、挨拶をする、してもらう気持ちよさが十分感じられるようにしていく。時には、子どもたちからの挨拶を待つ機会も持ちながら、自分からできて嬉しかった、気持ちよかった経験を積み重ねていく。
重点②
〇保護者への啓発として、食育便りなど発行し、園での栽培活動や、子どもたちの様子を伝えるとともに、保護者の思いを聞きながら、子どもたちがより食に興味関心がもてるようにしていく。
〇体づくりでは、子どもたちが体を動かす心地よさや楽しさを感じることを目標に、年間を通していつどのような運動遊びに取り組んでいくのか、ねらいを明らかにしながら、計画、実践していく。
重点③
〇子どもたちが、心や体を動かして十分遊びを楽しみ、互いに刺激し学び合えるよう環境設定やかかわりを工夫する。時には講師をよび、園内研修を充実させ、遊びの中で子どもたちの姿を多面的に捉え、課題を明確にし、かかわり方や手立ての検討、実践、見直しを続けていきたい。
重点④
〇子どもたちの興味を捉え、年齢や発達に合わせた絵本の読み聞かせを楽しむ時間を大切にし、話をしてもらうこと、聞くことの楽しさがより感じられるようにする。絵本だよりの発行や、親子で教師の読み聞かせを聞く機会を作り、家庭にも絵本の読み聞かせの大切さや楽しさが伝わるようにしていく。
〇話を聞くときは、相手の顔を見ることや、最後まで静かに聞くことなど、話を聞く時の約束を繰り返し伝え、習慣づけていく。教師は幼児が聞きやすいよう、話の仕方の工夫に努めながら、どんな風に話を聞いてもらうとうれしいか伝えるなど、話をする人の気持ちが感じられる機会を持っていく。
重点⑤
〇保護者・保幼小中・地域との連携をより深め、『地域の中で子どもたちを育てていく』という視点をしっかりと持ち続けていく。特に保育園との交流を深め、より連携を密にとり、互いの保育を見合い伝えあいながら、子どもたちを育てていくことができるようにしていく。
〇クラスだよりや、写真の掲示など、子どもたちの様子や、子どもたちが遊びの中で学んでいることが伝わりやすいよう工夫していく。